



がんばるけん!

くまもとけん!

©2010熊本県くまモン#K25559

第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会報告書



第34回 地域づくり団体 全国研修交流会 熊本大会 報告書

かたらんね!
もえる火の国 熊本で

平成28年

11月11日(金)~13日(日)

分科会会場 熊本県内11会場
全体交流会場 天聴の蔵(山鹿市)
全体会会場 八千代座(山鹿市)



CONTENTS

ごあいさつ		P4～5
主催者あいさつ	岡崎昌之(地域づくり団体全国協議会会長)	
歓迎あいさつ	蒲島郁夫(熊本県知事)	
来賓あいさつ	時澤 忠(総務省地域力創造審議官) 椎川 忍(一般財団法人地域活性化センター理事長)	
開催概要	大会スケジュール 開催場所マップ 協賛企業	P6～7
<hr/>		
分科会報告		
●第1分科会(熊本市)	地域づくりの昔と今 これから…	P8～11
●第2分科会(宇城)	ありのままを生かした地域づくり ～世界文化遺産三角西港と地域が主役： フットパス&Walkers are Welcome～	P12～15
●第3分科会(荒尾・玉名)	あなたの「まち」の世界遺産 ～地域の宝を生かしたまちづくり～	P16～19
●第4分科会(山鹿)	古民家を生かした地域づくり ～熊本地震に学ぶ～	P20～23
●第5分科会(菊池)	学校が楽校に！ 廃校が地域の宝に！	P24～27
●第6分科会(阿蘇)	再生可能エネルギーを生かしたまちづくり	P28～31
●第7分科会(上益城)	中山間地での地域づくり ～現魁(GENKAI)パワーば見ぎや来なっせ!!!～	P32～35
●第8分科会(八代)	受け継ぐ祭りと食文化 かたらんね やつしろ！	P36～39
●第9分科会(水俣・芦北)	鉄道と共に歩む 海辺の地域づくり ～不知火海 うたせ船と列車の旅～	P40～43
●第10分科会(人吉・球磨)	人吉・球磨 <small>じかん</small> 時感の旅 ～時を感じ五感に響く～	P44～47
●第11分科会(天草)	海との共生 ～天草五橋開通50周年の天草へ～	P48～51
<hr/>		
全体交流会 フォトレポート		P52～53
全体会 フォトレポート		P54～55
大会参加者一覧		P56～59
大会アンケート集計結果		P60～61
大会を終えて—	沢畑 亨 (第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会実行委員会 委員長)	P62



主催者あいさつ

地域づくり団体全国協議会
会長 岡崎 昌之

第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会を熊本県内で開催しまして、多くの皆様にご参加いただき、また、ご来賓の皆様にもご多忙の中、お越しいただき、ありがとうございました。

ご存じのように、熊本大会は、第29回大会として、2011年5月に開催する予定でしたが、大変残念なことに3.11が発災したことにより、苦渋の選択で開催は中止、延期となったわけでございます。県内から非常に多くの皆さんが「ぜひやりたい」との再度、声を上げていただき、今回の開催を決定したわけでしたが、また残念なことに4月の熊本地震で大変な被害が再度もたらされました。しかし、なんとかこれを乗り切ってやっていこうと決意のもとに県庁の皆さん、市町村の皆さんの絶大なるご支援、そして地域づくり団体の皆さんの熱い志で今回の大会を開催することができました。

私は、阿蘇の分科会に参加していましたが、テーマは「震災と再生可能エネルギーによるまちづくり」でした。現地に入る前はというふうな結びつのか理解できませんでしたが、いずれも地域社会がきちんとしていること、地域づくり活動が進んでいること、これがキーワードでした。「阿蘇市は、89戸が全壊だったが、直接の死者はなかった。高齢者がどこにいるのか、地域の人が把握していた」。これは、日頃の地域づくり、地域社会が確立していることだと伺いました。またバイオマスエネルギーでも小水力、地熱などの発電でも、「日ごろからの地域社会の意思疎通ができていことがあってはじめて発電ができる」と聞き、震災、再生可能エネルギー、いずれも底辺で共通するものが見えてきました。

これからも震災は続いていくと考えられます。それに対応するためにも、地域づくり団体が横で連絡を取りながら、より活発な活動を展開していきたいものだと、再度強く考えさせられました。これからの各分科会の報告も楽しみにしています。今日はよろしく申し上げます。ありがとうございました。



歓迎あいさつ

熊本県知事
蒲島 郁夫

本日は第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会をこの山鹿市で開催してくださり、誠にありがとうございます。私は山鹿市が出身地であり、とてもうれしいです。5年前に予定されていた熊本大会は、東日本大震災が発災し中止になりました。今回も中止されるかと心配していましたが、このような形で開催できました。多くの方が、震災があったにもかかわらず、この大会に参加し熊本県を元気にしていただくことが、知事として一番うれしいことであります。

4月14日と16日に阪神淡路大震災級の地震が2度も熊本を襲いました。それだけでなく、いまだに約4,100回の余震が起こっています。震災対応は難しいものがありますが、熊本県民は3つの原則で対応を行っています。一つ目は「被災者の痛みを最小化」すること。二つ目は元に戻すだけでなく「創造的な復興」をすること、三つ目は「復興を熊本県の発展のためにつなげる」ことです。8月3日には、「平成28年熊本地震からの復旧・復興プラン」を策定しました。ただ計画を作るだけでは、絵に描いた餅になってしまいます。多くの方が熊本に目を向けていただいていることに感謝しています。

3期目の知事になったのが4月16日。私はこの4年間を復旧・復興のために尽力したいと思っています。

多くのものを失いましたが、3つのものを得ることができました。

「日常の大切さを感じたこと」、みんなが地震を経験したことで「絆ができたこと」、全国から世界から支援の手が差し伸べられたので「感謝感謝の気持ちが出てきたこと」です。

これからも復旧復興は長く続いていきます。しかし、日常の大切さを常に感じながら、絆を持ちながら、全国や世界の皆さんに感謝感謝の気持ちを持ちながら、我々全員で復旧・復興に立ち向かわないといけないと思います。

大事なのは、熊本地震を風化させないことです。皆さんも温かい心で支援をしていただければと思います。本日は熊本によろしくお世話になりました。ありがとうございました。



来賓あいさつ

総務省地域力創造審議官
時澤 忠

今年4月に発生した熊本地震により亡くなられた方に心から哀悼の意を表し、被災された皆様にお見舞いを申し上げたいと思います。

現在も熊本地震の復旧復興に熊本県の皆さんが努力されているところですが、本日、全国から多くの方がご参加をいただき、このように盛大に開催されましたことを心よりお喜び申し上げます。また主催者の地域づくり団体全国協議会の岡崎会長のご指導とご尽力に感謝申し上げます。

全国の地域づくり団体の皆様がこの熊本大会を通じて歴史や自然などの地域資源にふれながら、現地で展開されている多くの地域づくりの取り組みについて直接学び、互いに情報を共有し、人と人の交流や連携の場を広げることは、誠に有意義であり、これらを生かしていただくことで課題である人口減少の克服、地方創生に大きく貢献することを期待しているところです。また熊本地震では、災害時の避難所の円滑な運営など日ごろのコミュニティ形成や地域づくりの重要性が改めて指摘されたところであり、皆様には熊本県や経験をぜひ各地に引き継いで、より強いネットワークを構築していただき、地域の安全と安心につなげてほしいと思います。

総務省としても過疎地域の維持活性化を図るため、地域の暮らしを支える生活サポートシステムの構築などを支援する取り組みを行っており、若者が都市地域から過疎地域などへ住民票を移し、地域協力活動を行いながら地域の定住定着を図る地域おこし協力隊の取り組み、地域経済の好循環を拡大するための取り組み、地方移住を希望する国民のニーズに応えるための取り組みを積極的に推進し、地方の自主性・主体的な地域力の創造に向けた取り組みに向けて力を注いでいきたいと考えています。

最後に本大会の開催にご尽力いただきました熊本大会実行委員会をはじめとする地域づくり団体の皆様、熊本県や市町村の関係者の皆様へ心から感謝申し上げますとともに、本大会の成功と参加した皆様のご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶とします。



来賓あいさつ

一般財団法人
地域活性化センター
理事長 椎川 忍

二度の震災を乗り越えてこのような全国研修交流会が開催されることを、関係者に心から敬意を表したいと思います。全国から応援の気持ちを込めて集まった皆さん、ありがとうございました。そして、県内の地域づくり団体の皆さん、元気な姿を見せていただき、私たちに勇気を与えてくれたことに対し感謝申し上げます。

私どもは、地域づくり団体全国協議会の事務局として、数十年間にわたって取り組んできましたが近年は、地域づくりの意義というものが理解されにくくなってきていると思います。地縁的なものから人々の心が離れていく、これは「近代化の波の影響」だと思います。

若い方がNPO活動やボランティアの活動には熱心に参画されるけど、地域づくり団体の活動には、だんだん関心が薄れていくという問題があり、地域づくりの今日的意義というものをもう一度考えなおす必要があります。それは、成熟社会に向かっていく中で、もう一度「自分たちの地域のことは自分たちでやる」という時代が来ると思います。幸せを追求するとき、まず身の回りにあるコミュニティが幸せでなければ、自分も幸せになれない、そういうことを考える必要もあります。

私たちは、地域づくりの今日的意義をこれから強調していきます。時代も変わり、災害も依然として多発しています。そういう問題を強く訴えかけていかないとイケません。そのために県や市町村のご協力も必要だと思っています。私たち地域づくり団体全国協議会事務局もがんばっていく、総務省さんにも応援していただきたいと思っています。

皆さん方がやっている活動は、成熟社会の中でぜひとも必要なことです。そのことを胸を張って訴え、若い世代の人たちが地域づくりに、もう一度参画してくれるような世の中を作りたいと願っています。そのような気持ちを込めまして、皆さんの開催にあたってのご協力、ご支援に厚く感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【開催概要】

第34回 地域づくり団体 全国研修交流会熊本大会

【大会テーマ】

かたらんね！ もえる火の国 熊本で

※「かたらんね」とは、熊本弁で「参加しませんか」という意味です。

【開催要領】

◎主催

- ◆地域づくり団体全国協議会
- ◆第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会実行委員会
- ◆火の国未来づくりネットワーク

◎後援

- ◆総務省
- ◆一般財団法人地域活性化センター
- ◆一般財団法人全国市町村振興協会

◎開催日

平成28年11月11日(金)～13日(日)

※熊本大会は分科会(11日)から始まり、最終日(13日)が全体会になります。

◎分科会

開催日時：11月11日(金)～11月12日(土)

会場：熊本県内11会場

経費：分科会ごとに異なります

内容：県内11会場において、個性あふれる地域づくり活動を体験し、共通の課題について全国からの参加者と意見交換を行う。

◎スケジュール

11月11日(金)

※ ▶18:00

分科会	分科会 交流会 会場：県内11会場
-----	----------------------

11月12日(土)

※ ▶18:30～20:30

分科会 交流会 会場：県内11会場	全体交流会 (山鹿市)
----------------------	----------------

11月13日(日)

▶9:30～12:00

全体会 (山鹿市)

◎大会協賛企業 (順不同)

株式会社えがお、橋本醤油合資会社、キリンビールマーケティング株式会社熊本支社、公益財団法人阿蘇地域振興デザインセンター、一般社団法人海達公子顕彰会、株式会社熊本銀行、合同会社フットバス研究所、八代地域農業協同組合、山鹿ニューグランドホテル株式会社、火の国未来づくりネットワーク水俣芦北ブロック会議、第10分科会 人吉・球磨ブロック、小国町山村活性化協議会、株式会社花富亭、株式会社熊本シティエフエム、千代の園酒造株式会社、道の駅 竜北、一般社団法人DMOやつしろ、有限会社七城町特産品センター、株式会社オレンジプロジェクト、楽夢下城、熊本県建築士会山鹿支部まちづくり景観研究部会、一般社団法人クラッシーノこうし、西部ガス株式会社熊本支店、栄工業団地協同組合、有限会社さんふれあ、NPO法人自立応援団、下町惣門会、二代目イモセガレブラザーズ、日本たばこ産業株式会社西日本原料本部、株式会社福山空間建設研究所、株式会社みずほ環境公社、株式会社山内本店、山都町国民宿舎 通潤山荘

◎全体交流会

開催日時：11月12日(土) 18:30～20:30

会場：天聴の蔵

内容：全国からの参加者と、各地域における様々な課題等について意見交換を行う。

【プログラム】

- 18:15～ オープニング 山鹿太鼓
- 18:30～ 開会
歓迎あいさつ
中嶋 憲正(山鹿市長)
- 18:40～ 交流会
- 20:00～ 次回開催県あいさつ 香川県
- 20:25～ 大会参加お礼
- 20:30～ 閉会

分科会・全体会 開催場所



◎全体会

開催日時：11月13日(日)
8:20～12:00

会場：八千代座

内容：各分科会の開催結果の報告等を通じて、全体での情報共有・意見交換等を行います。

【プログラム】

- 8:20～ チャリティ上映 映画「うつくしいひと」
- 9:15～ オープニング 山鹿灯籠踊り
- 9:30～ 開会
主催者あいさつ 岡崎 昌之(地域づくり団体全国協議会会長)
歓迎あいさつ 蒲島 郁夫(熊本県知事)
来賓あいさつ 時澤 忠(総務省地域力創造審議官)
椎川 忍(地域活性化センター理事長)
- 9:55～ 地域づくり団体全国協議会に係る今後の在り方検討会報告
- 10:05～ 分科会報告(1～6分科会)
- 10:30～ 休憩
- 10:40～ 分科会報告(7～11分科会)
- 11:00～ 熊本地震に関する報告 事例発表やパネルディスカッション
報告者1 小野 吉信(宮城県仙台市)
報告者2 吉村 静代(益城だいすきプロジェクトきまに:益城町)
報告者3 田中 万里(KAプロジェクト:上天草市)
- 11:40～ 次回開催県からのお知らせ 香川県の皆さん
- 11:50～ 講評 谷口 健一(前年度大会実行委員長:石川県)
- 11:55～ 実行委員長あいさつ 沢畑 亨(熊本大会実行委員長)
- 12:00～ 閉会

第1分科会 熊本市ブロック



水前寺 玄宅寺にて

テーマ 地域づくりの昔と今 これから…

スケジュール

◇11月11日(金)

- 13:00 熊本駅集合⇒JR移動
- 14:00 川尻 蔵元「瑞鷹」東肥大正蔵
- 14:00~14:30 川尻の町紹介
- 14:30~15:30 川尻町あるき
- 15:30~16:30 水前寺へ移動
- 16:30~18:00 参加者自己紹介
川尻まちづくり発表
- 18:30~20:30 懇親会@五郎八
- 21:30~24:00 夜なべ談義

◇11月12日(土)

- 8:30~ 9:30 水前寺成趣園散策
- 9:30~10:15 水前寺まちづくり発表
- 10:15~10:45 花童披露
- 10:45~11:15 自由意見交換
- 11:30~12:00 貸切市電で新町へ移動
- 12:00~13:30 料亭「喜楽」で昼食
- 13:30~14:30 一新町あるき
- 14:30~15:00 一新まちづくり発表
- 15:00~15:30 まとめ・意見交換
- 15:30~16:00 城彩苑にてお買い物
- 16:00 山鹿に向けて出発

1日目の内容

<川尻地区>

- ・東肥蔵にて、開懐世利六菓匠の一人、北川さんから、お菓子を中心とした川尻のまちづくりについての講演
- ・開懐世利六菓匠の一人、片岡さんの和菓子店「菓舗梅園」で、店主の片岡さんからお話。その後、店に隣接する西蓮寺を案内。熊本地震によるお寺の被害状況、お寺からみることができる瑞鷹の酒蔵の被害状況を見学
- ・加勢川沿いの船着き場を見学
- ・開懐世利六菓匠の立山さんのお店で、工芸菓子を鑑賞

<水前寺ワークショップ>

- ・A4用紙に団体名、団体の自慢を記入し、団体紹介
- ・川尻の町あるきの振り返りと、川尻の若者による活動を講演

<懇親会・夜なべ談義>

- ・水前寺地区で古くから市民に愛されている人気の居酒屋で懇親会。和気あいあいとした雰囲気もあり、話はずんだ。そのままの流れで、宿泊先の1室を使って夜なべ談義。



川尻 「瑞鷹」東肥大正蔵



川尻 「町あるき」の風景 お店編



川尻 「町あるき」の風景 景色編



川尻 「町あるき」の風景 お寺編



水前寺 「玄宅寺」にて参加者自己紹介



水前寺 「玄宅寺」で川尻まちづくり紹介



水前寺 「五郎八」で懇親会



水前寺 「夜なべ談義」の様子



朝の「水前寺成趣園」散策



朝の「水前寺成趣園」でお茶をたしなむ



水前寺 「玄宅寺」で水前寺まちづくり紹介



水前寺 「玄宅寺」で花童の披露



熊本市電を貸し切ったの移動



一新 「料亭 喜楽」での昼食



一新 「熊本城」周辺の町あるき



「熊本城 城彩苑」での意見交換

2日目の内容

<水前寺地区>

- ・水前寺公園の散策
- ・お抹茶を楽しむ

<水前寺ワークショップ>

- ・水前寺活性化プロジェクトチームによる活動報告
- ・花童の踊り披露

<一新地区>

- ・料亭「喜楽」での昼食
- ・一新の町を通り、熊本城二の丸広場で、熊本地震後の熊本城を見学
- ・城彩苑にて、湧々座を見学

<一新ワークショップ>

- ・一新のまちづくりの報告
- ・参加団体から、熊本市ブロックの分科会で、一番心に残ったことを紹介してもらう



熊本城 二の丸公園にて

参加者 29名 熊本市からの参加 30名
全体会での分科会発表は、2日間同行した熊本大学の学生が映像を作成。

まとめ

熊本市ブロックでは、地域づくりを頑張っている3つの校区にスポットをあてて紹介。特色を生かした取り組みを行っていることと、それぞれがこの全国大会に向けて連携し準備してきたことが、結果として団結力にもつながった。行政に頼り切らない、若い世代の取り入れ、文化芸術の連動、何よりも“人”によるつながりを大事にしている3校区。盛り込みすぎて、意見交換の場をゆつくりとすることができなかったのが反省点だが、その分懇親会、夜なべ談義でざっくばらんに話をすることができた。

アンケート集計結果

◆分科会について

①内容は面白かったか？	大変良かった－ 9	良かった－ 1	
②地元との交流は深まったか？	大変深まった－ 5	深まった－ 4	普通－ 1
③参加者との交流は深まったか？	大変深まった－ 7	深まった－ 3	
④食事は美味しかったか？	大変良かった－ 10		
⑤地域づくりへの思いは深まったか？	大変深まった－ 7	深まった－ 3	

◆感想から抜粋

- ・地域の方々の努力と結束力の強さを感じた。
- ・素晴らしいもてなしだった。
- ・各地域の協力、刺激の受けあい、熱い思い、取り組みの工夫を感じた。
- ・行政の役割、地域の役割を考えるきっかけになった。
- ・地元での活動の参考にしたい。

第2分科会 宇城ブロック



テーマ ありのままを生かした地域づくり

～世界文化遺産三角西港と地域が主役：
フットパス&Walkers are Welcome～

スケジュール

◇11月11日(金)

- 熊本空港、佐俣の湯へ迎え
- 14:00 JR宇土駅集合・出発
(車内で宇城地区の活動団体紹介)
- 15:00 三角西港
- 16:15 宇城市松合地区白壁土蔵群
- 17:10 宇城市小川町「風の館塩屋」
- 18:20 美里町さまたんロッジ着
- 19:00 宇城食の文化祭&交流会

◇11月12日(土)

- 8:00 朝食
チェックアウト
- 9:30 フットパス体験スタート
二俣橋♡コース
途中軽トラカフェ
フットパス弁当
- 13:00 会場移動(美里町役場)
- 13:15 意見交換会
- 15:00 意見交換会終了
美里町役場出発
- 16:30 山鹿市到着
全体交流会へ

参加団体

- 宇土市：(一社) 熊本県青年塾、船場川蔵の会
- 宇城市：三角西港ファン倶楽部、まっちゃ活かそう会、小川町風の会、松橋ポトスの会、松橋わさもん塾
- 美里町：砥用活性化研究会、(特非) 美里 NPO ホールディングス、美里フットパス協会

分科会のねらい

第2分科会のテーマは「あるものを生かす」です。世界遺産に登録された「三角西港」や地域の原風景を歩く「フットパス」を軸に、「松合の白壁土蔵群」や「風の館塩屋」等、この地域の宝の生かし方を体感していただきました。



【1日目】11月11日(金)

分科会初日は宇土駅に14時集合です。

貸切バスに参加者15名と宇城ブロックメンバーが同乗し、宇土半島を一周まわりながら、宇土市、宇城市、美里町とブロック内の活動団体の紹介を行いました。



4月の熊本地震で被害を受けた宇土市役所や、御輿来海岸を車窓から見学後、今回のテーマでもある「あるものを生かす」取り組みとして、三角西港の世界遺産登録に向けての取り組みを紹介いただきました。



三角西港では、三角西港ファン倶楽部の齋藤さんより、西港の概要説明や世界遺産登録までの取り組みを紹介いただきました。



その後、宇城市の松合地区へ移動し、古い町並みを活かした地域づくり活動として、まっちゃ活かそう会の活動の紹介を現地で行いました。



松合地区を後にして、1日目最後の訪問地宇城市小川町へ向かいます。

こちらでも、古い商家を保存し、レストランとしてイベント会場として活用している「風の館 塩屋」を見学しました。



宿泊地は美里町の「さまたんロッジ」です。夕食を兼ねた宇城地域の食の文化祭として、宇城ブロックで地域づくり団体が直接提供している料理や、地域の特産品を持ち寄って賑やかに開催しました。



開会に先立ち、末松宇城ブロックリーダーより、熊本地震における宇城地域の被災状況や、復旧状況などの説明があり、地域が連携し復興に向けて活動していきたいとの報告を行いました。



来賓として上田美里町長及び元松宇土市長にお越しいただきました。3年前より2市1町の首長を交えてのフォーラムを行っているので、地域づくり団体の活動に対する理解が深く、今回も華を添えていただきました。



交流会では地域の特徴を活かした料理が並べられました。メニューは次の通り。

宇土市：ハマグリ酒蒸、アサリ汁

宇城市：レンコン料理、えび天丼、生姜料理
ナス料理、みかん

美里町：ヤマメ塩焼、白米・赤飯おにぎり
コンニャクカツ、ミソだご



【2日目】11月12日(土)

第2分科会のテーマは「あるものを生かす」宇城地域全体で取り組んでいる「フットパス」によるまちづくりを、実践を通して参加者の皆さんに学んでいただきました。

この日はホストである美里フットパス協会主催のフットパスイベントと合わせて開催したので、一般の参加者20名も加わって賑やかに歩くことができました。



日常の活動を見ていただくことで、フットパスがどのように地域に浸透し、地域へどうアプローチしているかを感じていただけたと思います。



地域の方のおもてなしとしての「軽トラカフェ」やガイド、地域の方との偶発的な交流等もあり、宇城地域へのフットパスの広がりを感じていただけたかと思います。



途中の二俣橋や、熊延鉄道の跡地など、地震と水害により随分と傷んでいましたが、二俣橋の心も見ることができました。



さまたんロッジに帰り、フットパス弁当を食べた後、会場を美里町役場に移して意見交換会を開催しました。まずは、美里フットパス協会よりフットパスの概要説明を行いました。フットパスについて知っていただける機会になりました。

その後は参加者からの質問に答えたり、参加者の活動紹介等を交えたりしながら、意見交換を行いました。それでも時間オーバーで少々語り足りない印象でした。



まとめ

県外からの参加者は15名で沖縄から北陸関東まで広範囲からの参加でした。団体と行政の方のバランスも良く、宇城地域の幅広い取り組みを感じていただけたかと思います。

第2分科会としては、地元と参加者が交流できるよう、交流会の座席を工夫したり、時間を有効に使うために、管内の団体紹介はバス移動中の活動拠点の近くで、資料を使って行いました。

参加された方からのご意見として「フットパス」への関心がとても高いことが分かり、各地での活動に役立てられることを期待します。今、地域にあるものを生かす取り組みを、宇城の地で体験を通して感じていただけたかと思います。

後日、第2分科会に参加された3名が、沖縄で開催されたフットパスセミナーに全員参加され、再会を果たすことができ、今後、より「つながる」活動を展開していきたいと思っています。ありがとうございました。

第3分科会 荒尾・玉名ブロック



あなたの「まち」の世界遺産 ～地域の宝を生かしたまちづくり～

スケジュール

◇11月11日(金)

- 13:30 受付 JR荒尾駅前集合～出発
- 13:40 オリエンテーション(荒尾市メディア交流館)
ゆるキャラ:マジヤッキー(荒尾市)、たまにゃん(玉名市)
日程説明
斬試実演:小袋流斬試源清会
- 14:30 世界遺産「三池炭鉱万田坑」見学・活動紹介
- 16:00 海達公子詩碑めぐり
自由詩を創作しながら見るラムサール条約の荒尾干潟
- 19:00 分科会交流会・夜なべ談義

◇11月12日(土)

- 8:30 宮崎兄弟資料館見学・活動紹介
- 10:20 高瀬裏川石橋群見学・活動紹介
- 11:30 昼食(葉草料理)
- 12:40 高月官軍墓地見学・活動紹介
- 13:10 幻のスモモ「ハニーローザアイスクリーム」試食
- 13:40 草枕交流館見学・意見交換会
- 15:50 南関御茶屋跡見学・活動紹介
- 17:00 全体会の山鹿市へ到着
～全体交流会へ



荒尾・玉名地域には、歴史・文学・食など全国に誇れる宝が数多くあります。第3分科会(荒尾・玉名ブロック)では、このような地域の宝を生かして活動している団体の紹介や施設の紹介、また地域づくりの取り組み方の説明など、各所を巡りながら研修を行いました。当分科会は25名募集していましたが、最終的に全国から13名が参加されました。

【1日目】11月11日(金)

第3分科会には、石川県から2名、香川県から2名、沖縄県から2名、地域活性化センターから2名、福井県から1名、静岡県から1名、福岡県から1名、宮崎県から1名、岡山県から1名の計13名の参加でした。当日は熊本を襲った地震やJR九州の遅れの影響などで1名がオリエンテーションに間に合わないなど想定外のトラブルがありましたが、研修には全員が参加することができました。

最初のオリエンテーションでは、第3分科会リーダーの宮永氏と荒尾市役所市民環境部長の堀江氏による歓迎のあいさつ後、日程説明を行いました。最後にアトラクションとして、「小袋流斬試源清会」による斬試実演が行われ、参加者は真剣な眼差しで実演を見学していました。

◆オリエンテーション(荒尾市メディア交流館)



オリエンテーションには地元ゆるキャラも参加



アトラクション 斬試実演(小袋流斬試源清会)

◆三池炭鉱「万田坑」と海達公子の詩碑(四山神社)

研修の一つ目は、平成27年7月に世界文化遺産に登録された三池炭鉱「万田坑」で行いました。万田坑は年間約5万人の観光客が訪れる施設で、日々観光客への説明を「万田坑ボランティアガイド」が行っています。この日も万田坑の詳しい説明を受け、最後には「万田坑ボランティアガイド」の活動状況の説明があり、参加者と意見交換を行いました。

その後、14歳という若さで亡くなった夭折の少女詩人「海達公子」が残した詩碑を巡りながら、四山神社に登りました。ここでは「海達公子顕彰会」が海達公子の生涯や詩碑の数々について説明を行いました。



万田坑ボランティアガイドによる説明



海達公子の詩を全員で歌いました 海達公子顕彰会の説明と意見交換

◆分科会交流会と夜なべ談義(ホテルブランカ)

19時からグリーンランド遊園地内にあるホテルブランカで分科会交流会を行いました。交流会には全国から参加された13名のほか、地元の地域づくり団体や行政職員も多く参加され、60名による大交流会となりました。ステージでは、各団体がパネル等を掲げ、自分たちの活動報告を行いました。この報告に併せ、お酒を飲みながら談義することで、全国から参加された方々に第3分科会の地域づくり状況が詳しく分かっていただけたと思います。

最後に参加者全員で輪になり炭坑節を踊りました。アンコールの声も出るなど大変盛り上がり、会場全体が一つになって、「輪」と「和」に包まれた交流会となりました。

交流会後は部屋に戻り、夜なべ談義が繰り広げられました。交流会で話せなかったことなど、より深く地域づくりについて語り合いました。



笑顔と笑顔の分科会交流会
お互いの活動を報告しあいました



各団体がパネルを使つての活動報告



全員で輪になって「炭坑節」を踊り一つの大きな和ができました！



場所を替えての夜なべ談義

【2日目】11月12日(土)

◆宮崎兄弟資料館

1日目に引き続き、2日目も素晴らしい天気となりました。

午前8時15分にホテルを出発し、宮崎兄弟資料館で研修を行いました。今年は中国辛亥革命の主導者「孫文」の生誕150年という記念すべき年で、「孫文」の活動を支えた宮崎兄弟について「サキの会」が詳しく説明しました。



宮崎兄弟資料館で中国革命の父「孫文」とそれを支えた宮崎家の解説



◆高瀬裏川石橋群／薬草料理／高月官軍墓地

宮崎兄弟資料館を最後に荒尾市を離れ、次に玉名市へと向かいました。次の施設を担当する地域づくり団体がバスに乗り込み、移動中に事前説明(予習)をしておくことで、より分かりやすい研修となりました。

高瀬裏川石橋群では、実際に石橋を渡りながら歴史を学んでもらいました。担当する「玉名観光ガイドの会」が模型を使つての石橋の造り方の説明や自分たちの活動紹介を行いました。

昼食は、「薬草を食べて元気なまち」をテーマに活動している「小岱山薬草の会」が作る料理を味わってもらいました。玉名名物の薬草料理に参加者も舌鼓を打っていました。

昼食後は玉東町に移りました。国内最後の内戦「西南の役」で戦死した官軍兵士の墓である高月官軍墓地では「玉東町ふるさと勉強会」が担当し、激動の歴史について説明しました。



高月官軍墓地へ



高瀬裏川石橋群めぐり



玉名名物薬草料理を堪能！

◆草枕交流館(意見交換&分科会振り返り)／南関御茶屋跡

草枕交流館では、「天水グリーンツーリズム研究会」と「花工房てんすい」が担当し、映像を使いながら小説草枕の著者「夏目漱石」について語り合いました。

その後は、参加者全員がそれぞれの地元での地域づくり活動報告と、この2日間の研修について意見交換しました。

草枕交流館を出ると、最後の研修である南関町の南関御茶屋跡に入りました。ここは薩摩から江戸へ向かう途中、篤姫も立ち寄った茶屋で、その歴史について「南関宿場町伝楽人」が説明しました。



草枕交流館において参加者との意見交換会



南関御茶屋跡の解説

感想・意見(アンケートより)

(良い感想・意見)

- ◆地域資源について理解を深めることができた。
- ◆地元の郷土愛を感じた。
- ◆各地域でのおもてなしに感動した。
- ◆地域の方々の力強さを感じた。見習いたい。
- ◆地域の方々が数多く関わっている分科会だったので活気があった。
- ◆素晴らしい地域資源を活かすためには、やはり人の力が必要と感じた。関わる人たちの思いが強ければ強いほど輝くと感じた。
- ◆色々な場所を体験できたので交流ができた。
- ◆地域の宝を大切に守りながら、いろいろな人が活動している姿を見て刺激を受けた。
- ◆三池炭鉱「万田坑」、宮崎兄弟、夏目漱石、みかんの里など全てが初めての体験。これらを地域の資源として掘り起こしているバイタリティを

学んだ。

- ◆無償ボランティア活動を、嬉々としてやっているのは何故なのだろう。

(課題となる感想・意見)

- ◆地域資源をどのように活かしていくか。またどのような活動をしていくのかを話してほしかった。
- ◆組織の成り立ちや仕組みをもっと知りたかった。
- ◆県外からの参加者が少なく残念だった。
- ◆見学ばかりだったのできつかった。もう少し体験や交流の時間が欲しかった。
- ◆プログラムをつめすぎた。
- ◆一つ一つの会や活動についての問題点など掘り下げた話がしたかった。

まとめ

荒尾・玉名ブロックでは、「あなたの「まち」の世界遺産～地域の宝を生かしたまちづくり～」と題し、それぞれの地域にある宝物＝自分たちの世界遺産をどのように活用して地域づくりにつなげているかをテーマとしました。

2市4町の広域にわたる地域資源と団体の活動を紹介したため、少々プログラムが多すぎた感はありませんでしたが、それぞれの地域づくり団体の熱い思いは参加者に伝えることができましたし、感じ取ってもらえたと思います。

交流会で最後に踊った「炭坑節」では、大きな輪

の中に参加者全員の心の和ができ、とても思い出に残る交流会でした。

今回の交流研修で、全国からの参加者との交流ができたのはもちろんのこと、荒尾・玉名ブロックの地域づくり団体間も交流が深まり、今後、連携の強化が期待できることは大きな財産となります。

この経験を今後の地域づくりにどのように役立てていくかが課題となりますが、荒尾・玉名がガッチリを手を結び、地域の元気に向けて進んでいきたいと思いました。

第4分科会 山鹿ブロック



テーマ 古民家を生かした地域づくり ～熊本地震に学ぶ～

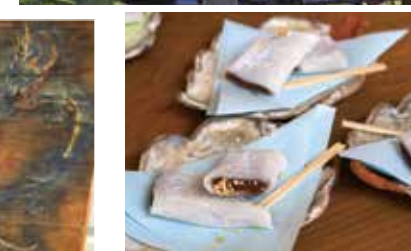
スケジュール

◇11月11日(金)

- 13:00～14:00 緑茶と山鹿羊羹でおもてなし
- 14:00～15:30 百家百景古民家ツアー (川の手コース)
山鹿豊前街道沿いの古民家や八千代座が持つ、耐震構造の仕組みを文化財ドクターが説明。
- 16:00～17:30 菊鹿温泉入浴・休憩
- 17:30～18:30 古民家談義
「山鹿の八千代座を核とした街づくりについて」山鹿市郷土史家の木村理郎先生が説明。
「地域づくりと東日本大震災」宮城県小野吉信氏が復興までの体験を発表。
古民家再生の事例として、山鹿市KOMIN会の前田昌宏氏が明日立ち寄る予定の「山鹿みんなの家」を中心とした活動を紹介。
- 18:30～21:00 懇親会(地元の雨乞い踊りを披露)
- 21:00～02:00 夜なべ談義



受付・岳間茶と金色の山鹿羊羹のおもてなし



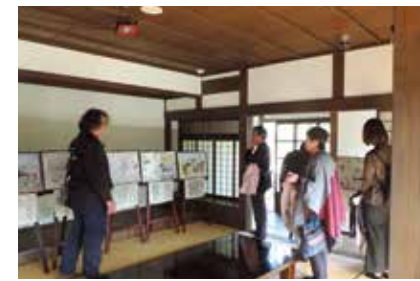
金粉をまぶした山鹿羊羹



古民家ツアー「川の手コース」さくら湯からスタート



龍神の湯(天井絵は狩野派の絵師による)



さくら湯「池の間」



大森家住宅



山鹿城址



米米惣門ツアー：木屋



米米惣門ツアー：千代の園酒造



米米惣門ツアー：光専寺



米米惣門ツアー：せんべい工房



豊前街道：千代の園酒蔵群



豊前街道：原文具店

【古民家談義】



八千代座を核とした山鹿の街づくりについて(郷土史家：木村理郎先生)



「山鹿みんなの家」について KOMIN会：前田昌宏氏



「地域づくりと東日本大震災」宮城県：小野吉信氏



地元保存会による雨乞い踊り



各地自慢の地酒をありがとうございました



夜なべ談義

国指定歴史園：鞠智城にて「ころうくん」歓迎



スケジュール

◇11月12日(土)

- 8:30~9:30 国指定歴史公園「鞠智城」
木簡の発見者である西住館長の説明で、八角形の「鼓楼」の中心の柱は古代の耐震構造であり、震度5強にも耐えたことを学んだ。資料館「温故創生館」では、AR対応のガイドブックの説明を体験した。
- 10:00~10:30 農産物直売所「夢大地」
- 10:40~11:50 「県立装飾古墳館」
福田主任学芸員から案内。横山古墳は内部公開中であつた。熊本地震により崩壊して内部に入れない装飾古墳もあることを知った。
- 12:00~12:40 「鹿央物産館」にて昼食
地元のおばさん達による地元の野菜を使った手づくりのお弁当に舌鼓を打った。工夫された料理の内容が好評であつた。
- 13:00~15:30 百家百景古民家ツアー「山の手コース」
八千代座・山鹿灯籠民芸館は、専属ガイドによる説明が大変好評であつた。
- 15:30~16:30 さくら湯入浴(希望者)
- 18:30~20:30 「天聴酒蔵群」にて全体交流会



ビデオ上映：西住館長自らの説明



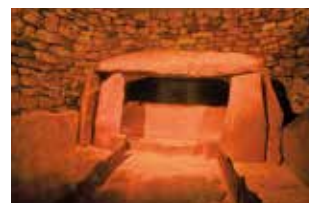
池跡から見つかった仏像



農産物直売所「夢大地」



内部公開の「横山古墳」(県立装飾古墳館)



チブサン古墳



鹿央物産館での昼食は地元の野菜を使った手作り弁当でした



展望所より双子塚古墳を望む



熊本地震で被害を受けた装飾古墳

【古民家ツアー「山の手コース」】



鞠智城温故創生館ではAR(拡張現実)による説明を体験した



修景をした豊前街道の街並み



「山鹿灯籠民芸館」



熊本地震で被害を受けた阿蘇神社と熊本城の宇土櫓の山鹿灯籠



豊前街道「山田屋」



古民家再生KOMIN会の「山鹿みんなの家」



八千代座ののぼり旗に大会名をいれました



天聴酒蔵の入口「メトロカフェ」の大坪店長は宮城県石巻市の出身



天聴酒蔵



八千代座前で記念撮影

まとめ

- 山鹿市は八千代座を核として豊前街道沿いの古民家を修景により整備してきました。熊本地震では、震度5弱で県内の中では比較的揺れは小さかった方ですが、相当長い時間揺れました。それでも、八千代座はじめ豊前街道沿いの古民家に被害が少なかったのは、修景の際に、文化財ドクターの指導により耐震対策を施していたためであると考えます。この点では、参加された皆さんにも参考になったと思います。
- 「鞠智城の鼓楼」にあつては、古代の人々の耐震構造の知恵に驚かされました。
- 研修を終えて、全国どこでも地震が起こる可能性がある昨今、「備えあれば憂いなし」。今後も耐震を念頭に古民家を生かした地域づくりを進めていきたいと改めて思いました。

第5分科会 菊池ブロック



(株美少年の前で記念撮影)

テーマ 学校が楽校に！ 廃校が地域の宝に！

スケジュール

◇11月11日(金)

- 17:00 参加者集合・受付
- 17:30 水源交流館内見学
- 18:00 オリエンテーション
- 18:15 スタッフ自己紹介
- 19:00 交流会開会
- 19:10 参加者自己紹介
- 21:00 交流会中締め
- 21:10 夜なべ談義

◇11月12日(土)

- 8:00 朝食
- 9:00 廃校事例紹介【研修室】
- 10:30 フットパス・軽トラカフェ体験
- 12:00 昼食
- 13:00 廃校事例視察【移住・定住支援センター】
- 14:15 廃校事例視察【(株)美少年】
- 15:30 分科会閉会

【分科会概要】

菊池東中学校が廃校を迎えたことを機に、地域住民がNPOを設立し、平成16年から学校跡地を活用している「きくちふるさと水源交流館」を拠点に、廃校を抱えた地域の置かれる状況を紹介します。地域を元気にする取り組み(地域づくり)について、参加者の方々と語り合い、共に学ぶ。



水源交流館



スタッフ自己紹介



自己紹介・お土産紹介をする参加者



水源ばあば手作りの家庭料理



交流会の様子

【1日目】11月11日(金)

11月11日(金) 17:00、参加者達が水源交流館に到着。控え室で一息ついたあと交流館内を見学。希望者のみとしていたが、全員が参加した。

1950年に落成した水源中学校校舎だが、当時の木造校舎がほとんどそのまま残っていることに参加者は感動した様子だった。

交流館見学終了後、NPO法人きりり水源村の松崎さんから施設利用の注意点など説明があった。続いて参加者の皆さんに菊池地域ブロックネットワークのスタッフ紹介をした後、すぐに交流会がスタート。

始めは緊張した面持ちの参加者だったが、すぐに打ち解け仲良くなった様子。会場は会話と笑い声に包まれた。

テーブルの上には、地元で採れた野菜を中心に菊池市水源地区の食の達人「水源ばあば」手作りの家庭料理と、菊池地域2市2町(菊池市、合志市、菊陽町、大津町)の名物料理が並んだ。

水源ばあば達による料理紹介を聞きながら、普段

味わえない料理を楽しんだ。

交流会開始後すぐに始まった参加者自己紹介では、自分達の活動紹介や持参したお土産紹介などで大いに盛り上がった。

交流会終了の時間になっても参加者は話し足りない様子。食べ切れなかった料理を別室まで持ち込み、長旅の疲れを忘れ、夜遅くまで夜なべ談義が行われた。



すぐにお友達になりました

【2日目】11月12日(土)

・ 廃校活用事例紹介(研修室)

朝食後、9:00から研修室で廃校活用事例紹介を行った。

菊池東中学校跡が少しずつ変わっていき、現在の水源交流館へ生まれ変わるまでの経緯を紹介した。

参加者からは、「住民をどう説得したのか」「行政とどう関わっているのか」「予算はどうなっているのか」など突っ込んだ内容の質問も多く出た。



研修を受ける参加者



質問をする参加者

・ フットパス・軽トラカフェ体験

菊池地域で最初にフットパスに取り組んだNPO法人きらり水源村松崎さんのガイドでフットパスを体験した。中間地点では軽トラカフェで、地元のお茶と手作り和菓子を振る舞った。

参加者は景色・おやつ・会話を満喫した様子であった。



フットパスでは美しい風景も楽しめます

・ 廃校活用事例紹介(現地視察)

現地視察での廃校活用事例紹介では、「癒しの里きくち移住・定住支援センター(元龍門小学校)」と、「株式会社美少年(元水源小学校)」の視察を行った。

移住定住支援センターは、地域おこし協力隊員の拠点となっており、移住・定住促進のための空き家調査、地域の催しの企画運営などの取り組み紹介があった。

参加者達の地域でも同じような課題を抱えており、質問が多く出た。

株式会社美少年は、日本酒の製造販売拠点として廃校を利用しており、大変珍しい取り組みである。事務所内の見学ができないという急なアクシデントはあったものの、口頭での概要説明と、酒蔵の見学を行うことができた。



美少年酒蔵にて

まとめ

第5分科会の参加者は、地域で廃校利活用の課題を抱えているという方が多かった。その中で、今回水源交流館を含め内容の違う3事例を紹介できた。アンケートでも「内容が大変よかった」との声が多くみられたことは、有意義な研修だったと思われる。

また、今大会の準備、本番と運営していく中で、火の国未来づくりネットワーク、菊池地域ブロック内の団体、メンバー間の絆が深まったように感じる。今後いろいろな活動をしていくうえで大きな収穫ではないかと思われる。



アンケート集計結果

- (1)性別 男性:21名 女性:4名
- (2)年齢 20代:3名 30代:3名 40代:3名 50代:8名 60代:7名 70以上:1名
- (3)研修 大変よかった:11名 よかった:12名 どちらでもない:1名 未回答:1名
- (4)交流会 大変よかった:11名 よかった:12名 どちらでもない:1名 未回答:1名
- (5)自由記述
 - ・地域の特色、魅力、ニーズに合った廃校活用で、これからの地域活動の参考になった。
 - ・食べ物がおいしく、研修、フットパスで頭も体も動かして気持ちがよかった
 - ・菊池地域を満喫できた。機会があればまた訪れたい。
 - ・スタッフの温かいおもてなしに感動した。
 - ・施設スタッフ、各団体、行政、皆さん仲がよくてうらやましい。



テーマ 再生可能エネルギーを生かしたまちづくり

【分科会のねらい・概要】

阿蘇地域は、国立公園に指定されていることや、火山・草原・温泉など数多くの観光資源に恵まれている。また、世界農業遺産・世界ジオパークなど、観光面で様々な仕組みづくりや情報発信がなされているが、あえて新しい試みとして、分科会のテーマを「再生可能エネルギー」とした。自然の恩恵を受けて成り立っている観光地だからこそ、環境負荷をかけない持続可能なまちづくりを進めていくことが大切だとの考えからである。

しかしながら、熊本地震により阿蘇地域も大きく被災したことから、急きよテーマの一つに、震災ツーリズムも加え、断層ガイドや災害時の再生可能エネルギーの役割なども、以下の通り検討材料の一つに加えた。

- ◆阿蘇地域には、太陽光・風力のみならず地熱・小水力・バイオマスなど、あらゆる再生可能エネルギーを活用した取り組みがある。そうした施設を地域活性化や観光に生かしていく方策を検討する。
- ◆世界農業遺産・世界ジオパークに関連した取り組み紹介
- ◆熊本の星受賞2団体の紹介。
- ◆震災ツーリズム+ボランティアツーリズムの紹介。

スケジュール

◇11月11日(金)

- 13:00~13:45 移動(熊本空港~阿蘇西小学校)
- 13:45~14:30 断層見学 説明:中坊 真氏(九州バイオマスフォーラム事務局長)
- 14:30~15:00 移動
- 15:00~15:45 阿蘇神社、門前町商店街見学 説明:岩本 芳幸氏(若きやもん会代表)
- 15:45~16:30 移動
- 16:30~17:30 うぶやま牧場風力発電見学 説明:井 修平氏(産山村総務課)
- 17:30~18:15 移動 ※時間次第で大観峰見学
- 18:15~18:30 木魂館(小国町)着(チェックイン)
- 18:30~20:30 交流会(各団体自己紹介後、交流会)

◇11月12日(土)

- 7:30~ 9:00 朝食
- 9:00~10:30 地震や自然エネルギー事業について取組み紹介
 - ・阿蘇における取組み NPO法人九州バイオマスフォーラム 事務局長 中坊 真氏
 - ・小国町環境モデル都市事業について 小国町役場政策課 長谷部 大輔氏
 - ・小国町木の駅プロジェクトについて (一財)学びやの里 事務局長 江藤 理一郎氏
- 10:30~12:30 地熱バイナリー発電見学 説明:穴井 帝史氏(松屋旅館)
地熱発電所見学 説明:都合 弘氏(中央電力わいた会)
- 12:30~13:30 昼食(地獄蒸し定食)
- 13:30~13:50 地熱木材乾燥施設見学 説明:江藤 理一郎氏(学びやの里 事務局長)
- 13:50~15:30 小水力発電所見学 説明:坂巻 香氏(ローカルパワー(株))
- 15:30~ 山鹿市へ出発
- 17:30~18:00 山鹿ニューグランドホテル 交流会会場(天聴の蔵)着

【実施内容】

11月11日(金)

①断層見学

阿蘇西小学校の近くで、熊本地震により鉛直方向で2m以上の段差が生じた地割れを見学した。地震学の資料を用いて、地震の起こるメカニズムや断層の種類についても説明を行った。



阿蘇西小学校前の断層見学

②阿蘇神社

国の重要文化財である阿蘇神社の楼門が熊本地震により倒壊している様子を見学した。楼門の前には、さい銭箱が置かれ、阿蘇神社の復興に向けての寄付金が集められていた。



倒壊した阿蘇神社楼門

③門前町商店街・若きやもん会

第2回熊本の星大賞を受賞した門前町商店街の若きやもん会の取り組みを、代表の岩永氏が説明した。商店街に植えられた桜の木や、湧水を店舗の前に展示した水基などの説明を行った。また、復興に向けた商品開発などの意気込みも語っていただいた。



門前町商店街

④産山風力発電所

うぶやま牧場と物産館に併設されている風力発電について、産山村役場の担当者から説明を受けた。順調に発電を行っているが、落雷などで修繕費等もかかっており、発電による売電収入は、修繕や建替のために積み立てているとのことであった。



うぶやま牧場風力発電

⑤大観峰

人の営みによって保全されている阿蘇の草原と、火山によって形成された雄大なカルデラ地形が一望できる大観峰において、世界ジオパークや世界農業遺産に認定された阿蘇の景観・文化について解説を行った。



大観峰

11月12日(土)

⑥取り組みの事例紹介

阿蘇地域や小国町で取り組んでいる再生可能エネルギーを生かしたまちづくりについて、事例発表を行った。また、震災後の支援活動についても報告があった。



取り組みの事例紹介

⑦木の駅プロジェクトの解説

会場となっている木魂館での「木の駅プロジェクト」について、現地をみながら説明があった。地域の間伐材が持ち込まれると「モリ券」という地域通貨が発行され、小国町内の80店舗で利用できる仕



木の駅プロジェクト説明

組みや、持ち込まれた木が薪として木魂館に併設されている温浴施設の燃料として、薪ボイラーで利用されている仕組みを見学した。

⑧地熱地域の紹介

わいた温泉地域では、いたるところで蒸気が噴出しており、この地域では調理や暖房、野菜やシイタケなどの乾燥に地熱を利用していることが紹介された。欠点として、家電製品などが金属の腐食により壊れやすいとのことであった。

⑨地熱バイナリー発電

松屋温泉旅館で掘削した井戸から、蒸気を取り出して小型のバイナリー発電(2種類の流体を使う発電)について、施設を見学した。残念ながら施設管理者の説明は聞けなかったが、資料を見ながら地域リーダーが代理で説明を行った。



地熱バイナリー発電所見学

⑩湯けむり茶屋・地獄蒸し定食

地熱地域ならではの地熱蒸気で野菜や鶏肉などを蒸して調理した地獄蒸し定食を昼食に。調理も味付けもシンプルであったが、素材の味わいと自然の恵みを堪能することができた。



わいた会地熱発電所

⑪わいた会地熱発電所

地域住民が全員株主となる地熱発電所の取り組み。これまで、地熱発電所の計画が何度か持ち上がったが、なかなか同意が得られず実現しなかった。しかし、地域住民が主体となった発電会社ができたことで、発電によって得られる収益が地域に還

元され、雇用にもつながっている。見学に訪れる視察客も、地元の温泉宿に泊まるなど、この分科会のテーマの本命と言えるような事例であった。



地熱蒸気で調理する地獄蒸し定食

⑫木材地熱乾燥施設



地熱木材乾燥施設見学

日本で唯一の地熱を利用した木材乾燥施設。適度な湿度と中温でゆっくり乾燥させることで、つやのある質の高い小国杉の木材製品が生産されること。

⑬小水力発電所

もともと農業用水として河川から引き込まれていた用水路の落差を利用して、小水力発電所が設置された。Uターンで戻ってきた地元の女性が、父の作ったローカルパワーという発電会社の社員として、発電所の実現までこぎつけた話をお聞きした。



小水力発電所

成果と課題

(1)成果

- 参加者のアンケート結果では、分科会全体の評価として1日目の満足度は100%であり、2日目は、92%の満足度であった。個別の項目についても満足度は高く、当初の狙いであった再生可能エネルギーや震災をテーマにしたツーリズムについては、成功したといえる。阿蘇地域からの参加者も、普段見れないところを見れたという感想があった。
- 阿蘇を再生可能エネルギーという新しい切り口で、まちづくりや地域活性化について紹介・意見交換をすることができた。
- 熊本地震があったにもかかわらず、無事開催できたのは、大変良かった。ただ、地震の影響により、地元からの参加者は少なかったが、密度の濃い議論ができた。

(2)課題

- 阿蘇地域の分科会については、知名度からある程度参加者は集まるだろうと少し油断していたせいか、定員よりも参加者が少なかった。
- 初めての試みもあったので、資料やガイドが不十分な箇所があった。対外的に説明することが初めての箇所もあり、ガイドや配布資料の充実が課題となった。
- 分科会で事例発表が多く、議論を深める時間がやや少なかった。参加者が受け身の形になりがちであった。
- 主催者側からの情報提供や説明が多かったため、参加者を交えた意見交換の時間が少なかったが、交流会の時間である程度補うことができた。
- 申し込み時に、参加目的や動機などを申込用紙に記入してもらえれば、受け入れ側の準備の参考になるのではないか。

第7分科会 上益城ブロック



テーマ 中山間地での地域づくり ～現魁(GENKAI)パワーば見ぎゃ来なっせ!!～

【分科会のねらい・概要】

ねらい①現魁パワーの地域づくり

地域資源を活かし生涯現役で地域づくりに関わる事例発表や「中山間地の生き残り」をテーマとしたワークショップ等を通して、参加者と共に課題を共有する。

ねらい②歴史・文化を感じる

こんにやく作りや化石発掘等の体験活動、通潤橋や御船町恐竜博物館見学等を行い上益城地域の歴史・文化に触れる。

ねらい③ゆっくりと、気づき、振り返り、持ち帰り

決して詰め込み過ぎず、自分たちの地域づくりについて膝を突いて参加者と共に語り合い、見つめ直す。

スケジュール

◇11月11日(金)

- 13:00 通潤橋紹介
- 15:00 開会・挨拶
- 15:20 自己紹介及び活動紹介
- 16:10 事例発表 NPO法人丸山ハイランド
- 17:00 体験活動(こんにやく作り)
- 18:00 分科会交流会(よつてはいよファクトリーによる郷土料理)
- 21:30 夜なべ談義

◇11月12日(土)

- 9:10 吉無田地区名所紹介(吉無田水源・緑の村天空のステージ)
- 9:30 事例発表 上田代ばあば会・お茶乃のぐち・愛郷吉無田
- 11:10 ワークショップ「テーマ:中山間地の生き残り」
- 12:30 昼食(上田代ばあば会によるお弁当)
- 14:00 体験活動(化石発掘)
- 14:30 御船町恐竜博物館見学
- 15:00 分科会まとめ
- 16:10 熊本地震現地見学
- 16:30 体験報告及び意見交換
- 17:00 閉会



【1日目】11月11日(金)

○通潤橋紹介

山都町かたりべ会より、山都町にある通潤橋(国指定重要文化財)において通潤橋の役割と白糸台地へ水を運ぶために行った先人たちの知恵を紹介し、参加者と共に通潤橋の歴史について学びました。

この通潤橋も4月の熊本地震により被災し、現在(平成28年11月)も放水ができない状態にあります。



通潤橋

○自己紹介及び活動紹介

各団体から事前に提供して頂いた1枚の写真を使って自分たちの自治体の紹介や地域づくり活動の紹介を行いました。各自1分の持ち時間に気を揉む場面も多々ありました…



参加者の自己紹介等



自己紹介用写真(香川県三豊市)

○事例発表

「丸山ハイランドのこれまで」

NPO法人丸山ハイランド 中村 勝子氏

NPO法人丸山ハイランドの中村勝子氏より標高約800mの丸山ハイランド(山都町下名連石地区)を舞台とし、豊かな自然と農業、園芸、人のふれあいを通して知的障害者の自立支援活動を行ってきた事例の発表を行いました。



中村勝子氏による事例発表

○体験活動(こんにやく作り)

丸山ハイランドの農場で採れたこんにやく芋を使って、手作りこんにやく作り体験を行いました。初めて体験される参加者がほとんどでしたが楽しみながら活動されていました。少しかゆみもあったようですが…分科会交流会では実際に手作りこんにやくを刺身にして、おいしくいただきました。

○分科会交流会・夜なべ談義

地元の野菜をふんだんに使った愛情たっぷりの郷土料理で参加者のおもてなしを行いました。また、参加者には地域の自慢の特産品をお持ち頂き、全国からの特産品と郷土料理に舌鼓を打ちながら楽しい交流会となりました。その後の夜なべ談義は夜遅くまで続き…交流を更に深めることができました。



分科会交流会

【2日目】11月12日(土)

○吉無田地区名所紹介

御船町の吉無田地区にある阿蘇外輪山の伏流水が湧く「吉無田水源」と、標高約700mにある吉無田高原「緑の村天空のステージ」に案内し、地形や展望紹介を行いました。吉無田水源の水は前日の酔い醒ましに最高に効きました。

○事例発表

「上田代ばあば会の取り組み」

上田代ばあば会 川上 久子氏

「吉無田における農業の今後」

お茶乃のぐち 野口 大樹氏

「田代東部地区の活性化活動」

愛郷吉無田 吉澤 勝美氏



川上久子氏による事例発表

吉無田地区(中山間地)で地域づくり活動又は経営を行っている川上氏・野口氏・吉澤氏の3名より、地域資源を活用した活動事例について発表を行いました。



ワークショップ

○ワークショップ「テーマ:中山間地の生き残り」

1班 地域資源を活かした商品開発・観光振興

2班 移住・定住の推進

3班 自主的な地域づくりの推進

4班 愛郷心・地域への誇りを育む教育の充実

5班 熊本地震からの復興 ※地元スタッフのみで構成

中山間地の生き残りをテーマに5班に分けワークショップを行いました。ワークショップでは、YWT法を用いて Y: やったこと W: わかったこと T: つぎにやること を自らの経験等を基に分析し、班毎に発表を行いました。中には昔話風の発表もあり、非常に盛り上がりを見せました。

○体験活動(化石発掘)・御船町恐竜博物館見学・分科会まとめ

白亜紀の地層から恐竜の化石が発掘され、恐竜によるまちづくりを行っている御船町で化石の発掘体験と、恐竜の骨格が展示してある御船町恐竜博物館の見学を行いました。その後、体験交流室において参加者よりそれぞれ分科会の感想を発表していただき、第7分科会のまとめを行いました。



化石発掘体験

○熊本地震現地見学・体験報告及び意見交換

「きままにのあゆみ」

益城だいすきプロジェクト きままに 吉村 静代氏

4月に発生した熊本地震において被害の大きかった益城町の現地見学を行うと共に、益城町テクノ仮設団地において、益城中央小学校避難所で新たなコミュニティづくりを行った吉村静代氏による活動の発表を行いました。



吉村静代氏による体験報告

まとめ

上益城は九州の中央に位置し、熊本平野から阿蘇南外輪と九州脊梁山地につながる自然豊かな地域です。

上益城地域は、4月に発生した熊本地震により大きな被害を受けましたが、地域では限界集落化が進む中、それぞれが地域コミュニティを構築し生涯現役の気概で中山間地域での地域づくり活動を行っています。

分科会を通して、参加者と語り合い中山間地域の様々な課題を共有しながら地域づくり活動の模索を行うと共に、熊本地震から復興へのステップアップとなる分科会となりました。また、参加者と膝を突き合わせ、意見交換を行い、「人と人がつながること」によるネットワークの形成ができました。



参加者と明るく楽しく元気よく交流

熊本地震からの創造的復興を図るため、自分たちの地域づくりについて共に語り合い、参加者、スタッフの両者にとって自らを見つめ直す機会となった。

参加者・スタッフ両者の違いの認識

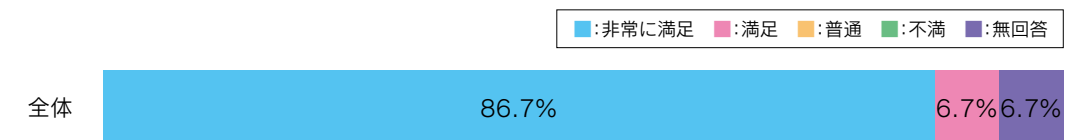
自分達のこれまでの経験をもとに、他との違いの認識をし、自分だったらどうするかを考えながら参画した。

夢を語る(未来志向)

今後、どう活動するかをイメージし、創造力と課題解決の実行力を培うことができた。



アンケート集計結果



参加者に分科会終了後にアンケートを実施しましたが、参加者のうち94.4%（内訳：非常に満足86.7%、満足6.7%）の方が満足だったとの結果となりました。

参加者からのコメント ※一部抜粋

○地域の方々のおもてなし、スタッフの対応、スケジュール全てが充実したもので良かった。

○スタッフ皆様の常に笑顔を絶やさない態度、心のこもったおもてなしに深く感謝します。イベントは「人」なのだと思います。ありがとうございました。

○被災地であるにもかかわらず開催にこぎつけたと思います。その中でベストな運営ありがとうございました。

第8分科会 八代ブロック



テーマ 受け継ぐ祭りとお文化 かたらんね やつしろ!

スケジュール

◇11月11日(金)

開催場所：日奈久温泉街及び日奈久ゆめ倉庫

- 13:00 (集合) 新幹線「新八代駅」集合
- 13:10 (八代市観光) 晩白柚、イ草、トマト他紹介
妙見宮、球磨川、博物館見学
- 16:10 (体験) 名物ちくわ焼き体験
- 17:00 (自己紹介) 自己紹介(祭り自慢など)
- 18:00 (夕食交流会) 伝統芸能(千丁女相撲)鑑賞
郷土料理、情報交換
- 20:30 (夜なべ談義) 温泉宿での夜なべ談義

◇11月12日(土)

開催場所：日奈久ゆめ倉庫及び氷川町ウォーキングセンター

- 7:00 (早朝ウォーク) 日奈久温泉路地裏散策
- 9:00 (講演)「八代妙見祭出し物の歴史と現在」
講師：八代市立博物館学芸員 早瀬輝美氏
- 10:10 (講演)「息づく食文化とよみがえる郷土食」
講師：くまもとふるさと食の名人 河野京子氏
- 13:05 (氷川町観光) 立神峡、秋山幸二ギャラリー
氷川町まちづくり酒屋、八火図書館
見学、歴史・文化散策
- 14:00 (ワークショップ) 「祭りとお文化を、地域特性を考慮したまちづくりに活かそう」
講師：熊本県立大学総合管理学部 小園和剛准教授
- 15:30 (休憩) 氷川町竜北物産館ビストログリーン
- 16:00 (移動) 山鹿市全体交流会会場へ

○分科会概要

日本各地にある「祭り」と「食」について取り上げ、これを地域づくりに生かせる事はできないだろうか?そんな思いからテーマを『受け継ぐ祭りとお文化、かたらんね やつしろ!』と掲げて取り組んだ。

八代地域には九州の三大祭りと呼ばれる八代妙見祭があり、今年ユネスコ無形文化遺産登録で(大会後正式決定)伝統芸能や歴史ある民俗文化財の保存継承に力が入る。また、世界一大きな果実「晩白柚」をはじめトマトやイ草、生姜など有名な農産物が数多くありこれを生かした豊かな郷土料理もある。全国にも同様な地域の祭りとお食があり、それぞれ地域の特性に合わせた祭りとお文化で地方創生に繋げることを探る。



分科会実行委員で円陣を組み氣勢を上げる!



【1日目】

分科会の流れは、八代市内の観光案内からスタートしました。まず八代の農産物を紹介するために①アグリビジネスセンターへ、農産物の紹介と施設内加工設備の説明を聞いた後に②妙見宮③球磨川にある市指定建造物の^{ようはいげき}遥拝壇の視察を経て④八代市立博物館で国指定重要無形民俗文化財 八代妙見祭の神幸行事や八代の貴重な文化財の事について説明を聞きました。

分科会の会場は、⑤日奈久温泉(日奈久ゆめ倉庫)でした。名物である「日奈久ちくわ」の⑥ちくわ焼き体験をして、焼いたちくわを食べながら会場入りしました。会場入り直後の⑦オリエンテーション(グループ別に自己紹介)では、まだ緊張感ある会話が目立ちましたが、名刺交換も進み、歓迎セレモニーとして披露された⑧女相撲を観るころには、みんな爆笑の渦で和やかなムードで⑨夕食交流会に入りました。夕食のメニューは、「食」をテーマにした事もあり、地元の食材を生かした料理をたくさん準備しました。飲み物は懐かしいラムネ・サイダーに地酒

など計11種類、おかず類は、生姜のきんぴら、鮎の甘露煮、煮しめなど8種類。御飯類には、このしろ寿司や生姜の炊き込みご飯など。トマトやスイーツを加え計30種類のメニューを味わっていただきました。料理を提供された「ふるさと食の名人」も交流会に参加され、食材の生かし方や料理についての話題で会話が弾んでいました。交流会終了後は、参加者と温泉宿に場所を移し⑩夜なべ談義に花が咲きました♪ 地域づくりへの思いや共通する課題、夢などが尽きず、宿の女将さんに時間切れ(お開き催促)された初日でした。



【2日目】

2日目は、日奈久の温泉路地裏散策(早朝ウォーク)からです。約1時間の散策でしたが、趣のある日奈久の路地裏を山頭火スタイルの案内人からの詳しい説明もあり、得した気分のスタートでした。日奈久の温泉街には、山頭火が詠んだ600枚の句板があったり、湯治の街・日奈久ならではの、耳の神様や目の神様、手足の神様など、珍しい体の神様たちがいる事も知る事ができました。



日奈久温泉路地裏散策

朝食を済ませた後は、午前中に講演が2本ありました。「八代妙見祭出し物の歴史と現在」講師：八代市立博物館学芸員 早瀬輝美氏の講演は、妙見祭のシンボル(神輿)を中心とする出し物、笠鉾について詳しい説明がありました。印象に残ったのは、組み立て式の笠鉾の保管は、解体して箱に入れて部品ごとに町民が分担して家で保管されていた事。火事等に遭遇しても部分的な損傷であれば修理も容易になるなど先人の知恵を感じました。



食関係講演

2本目の講演は「息づく食文化とよみがえる郷土食」講師：くまもとふるさと食の名人 河野京子氏。講演では、熊本で生まれた伝承の味(高菜漬け・このしろ寿司・辛子蓮根ほか)の紹介から八代地域・

郷土料理の特徴、祭り・行事と郷土料理の紹介、現在取り組まれている復活プロジェクトのハトムギ加工食品の開発・販売促進についての熱い思いを聞く事ができました。午後からは会場を氷川町に移し観光名所の案内とワークショップがありました。移動の途中で食べた昼食メニューは、熊本名物の中華料理、太平燕とジビエ料理(鹿肉丼)をいただきました。

氷川町では、立神峡の見学からスタートです。立神峡は清流氷川が古生代の石灰岩を浸食してつくった高さ75m、幅250mの大岩壁が迫力ある観光スポット。キャンプ場やログハウスなど整備された里地公園の管理者高山登氏から説明と吊橋の案内がありました。その後は、氷川町平逸郎副町長が合流され秋山幸二ギャラリー、まちづくり酒屋、八火図書館の案内と説明を聞く事ができました。氷川町は「まちづくり情報銀行」「まちづくり支店」を拠点として早くからまちづくりの取り組みが行われています。

分科会最後のプログラムは、テーマ「祭りと食文化を、地域特性を考慮したまちづくりに活かそう」講師：熊本県立大学総合管理学部 准教授 小園和剛氏によるワークショップ(ワールドカフェ)を行いました。グループ毎に「祭り」「食」の課題や今後の取り組みについて意見交換をしてまとめた内容を発表。情報共有ができました。あるグループでは「人材不足」「資金不足」「技術不足」「伝承出来ない」「本来の目的が薄れている」「地域の人の参加が少ない」など多くの課題と、これからの取り組み(課題克服)については、「すべては次世代へ」とまとめ、報告(発表)されました。



ワークショップ

分科会の全プログラムが終了し、氷川町竜北物産館ピストログリーンでの買い物をして、全体交流会が開催される山鹿市に移動しました。

まとめ

地域づくり全般の共通項目として、全国各地で同じ様な課題を抱えている事が確認できた分科会でした。それと同時に、成功事例も共有できる事に気が付きました。福井県あわら温泉で、湯めぐり手形を上手に運用されている事例などは、分科会開催地の日奈久温泉街でも参考になります。今回関係者をつなぐ事ができ、新たなネットワークが構築できた事も成果として報告します。

最後に、今回は祭りについて深く掘り下げてそこから地域づくり・地方創生のヒントを掴もうと考えていましたが、全体的なプログラムの多さから最後のまとめ時間に余裕がなくまとめきれませんでした。しかし、討議の過程で出た問題や課題を参加者同士が共有することができたことは貴重な財産になったと思います。今後は、この研修で得たことを各地域に持ち帰ってそれぞれの問題解決の糸口としてご活用いただき、今すぐとは行かなくとも皆さんの次世代の地域づくりに繋げていただければ幸いです。

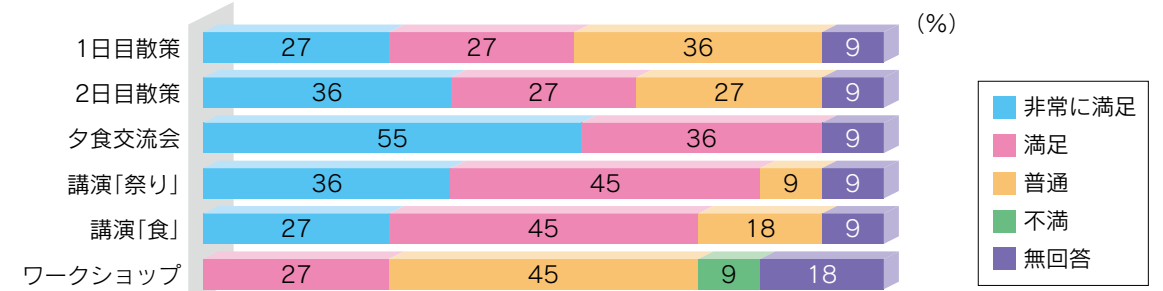


あわら一日奈久、温泉ネットワーク



全体交流会二次会

事後アンケート集計結果



1日目散策	2日目散策	夕食交流会	講演「祭り」	講演「食」	ワークショップ
少しバタバタした感じはありましたが、市内観光は大変楽しく参考になりました。博物館での時間がもっと長ければとは思いました。日奈久温泉の散策がとても良かったです。	歴史的な建造物を有効活用している様子が見られて参考になりました。物産館も地元の素朴な食材を置いてあったのでうれしかったです。本当はもっと買い物したかったです。	女相撲は地元で暮らす女性達の大きさや優しさに心を打たれました。分科会テーマの伝統・伝承について、演じられた女性たちの心根の美しさこそ地域で大切に伝承すべきものと思いました。	前日の神社で疑問に思っていたことが解説されて、わかりやすかったです。妙見祭について理解が深まりました。	熊本の皆様の食に対する思いが伝わってきました。	全体的にまとまりのない印象のワークショップではなかったかと思えます。参加者の皆さんの熱い話が聞けたことは刺激になりました。
ちくわが美味でした。みなさんのおもてなしが嬉しかったです。	まちなみ整備、空き店舗等のリノベーションに興味がありました。事前にその特産物を知りたかった(道の駅でのお買い物)。	女相撲は今後も次世代にぜひとも繋げて欲しいものです。面白かったです！夕食は最高に美味しかったです。手作りの料理、郷土のメニュー最高でした。	提言のある優れたレポートで感銘を受けました。	食文化への強い取り組みの意気込みが伝わり、これは持ち帰って使える！！と思いました。食の名人の熱い思いが伝わった。	このWSが始まるまで、参加者で意見交換することがなかったため、短時間で何かをまとめるには無理がありました。
内容がとても充実しており、進むペースもほどよく、とても満足しました。グループ内の交流や会話の時間も適宜とれたのが良かった。	立神峡の景色はインパクトが大きかったです。これは氷川町にとって大きな自然資産ですね。	伝統芸能を世代をこえて継承されていることは素晴らしいと感じます。見習う点でありました。これからも頑張っていたきたいです。郷土料理の素晴らしさにも感動しました。	早瀬氏の「変わらないように変わる」の言葉に感銘を受けました。	しょうが等、地元の食材での取り組み等こういう活動があるが故、夕食交流会の見事な料理が登場したのかと思いました。	ワールドカフェ方式ではテーマが変わらないのが原則です。テーマを「食」と「文化」に分けられた方が良かったと思います。
朝の出発が早かったため、少しスケジュールにキツさを感じました。内容はとても良かったと感じています。遠方からの参加者はお疲れだったと思います。	前日の夜の宿泊で十分な睡眠が取れず、体調的にキツかったです。	参加者が一人ひとりの現状を話す機会があっても良かったのでは。	説明のめりはりがなく、一本調子のお声で、眠くなりました。	レシピ集が後から利用できるか…と良かったです。	どう伝えていくのか？なぜ伝えなければならないのか？新たな疑問と今後の課題にぶつかった(私自身)。



肥薩おれんじ鉄道水俣駅にて

テーマ 鉄道と共に歩む 海辺の地域づくり ～不知火海 うたせ船と列車の旅～

スケジュール

◇11月11日(金)

- 12:30 肥薩おれんじ鉄道八代駅・集合!
- 13:10 貸切車両「おれんじカフェ」で不知火海沿岸をめぐる
- 14:50 湯の児温泉海と夕やけ(水俣市)
分科会「鉄道と共に歩む海辺の地域づくり」
- 18:00 福田農場ワイナリー(水俣市)
分科会交流会
- 21:00 夜なべ談義(場所:湯の児温泉海と夕やけ)

◇11月12日(土)

- 8:50 海と夕やけ出発
- 9:15 赤崎展望台
海上に浮かぶ旧赤崎小学校を見学
- 9:45 計石漁港(芦北町)
「芦北観光うたせ船まつり」でうたせ船クルージングを体験
- 11:30 津奈木町総合グラウンド(津奈木町)
つなぎふれあい祭りで昼食
- 12:40 つなぎ美術館(津奈木町)
事例報告(赤崎水曜日郵便局)
地域課題解決ワークショップお題頂戴!
- 15:00 全体会会場へ移動開始

第9分科会では、「鉄道と共に歩む海辺の地域づくり」をテーマに分科会を行いました。

全国から訪れた皆さんには、不知火海沿岸を走る肥薩おれんじ鉄道にご乗車いただき、沿線の様子を見てもらったうえで、事例報告とパネルディスカッションに参加していただきました。

交流会では地元の食材でおもてなし、夜なべ談義にも花が咲きました。

2日目は旧赤崎小学校見学、うたせ船乗船や地域の観光行事などの体験を経て、つなぎ美術館で行われたワークショップで地域課題解決のためのアイデアを考えてもらいました。



肥薩おれんじ鉄道

【1日目】鉄道と地域づくり

肥薩おれんじ鉄道八代駅で全国からの参加者11名を受け付け、貸切車両「おれんじカフェ」に乗車しました。この日は、震度4の地震発生などにより新幹線や高速道路といった交通に乱れが発生しましたが、なんとか間一髪で全員集合することができ、無事出発することができました。

おれんじカフェ車内では、参加者がそれぞれ自己紹介を行い、事前に用意した水俣芦北地域のスイーツを詰め合わせたオリジナルの「お茶のこぶくろ」を食しながら景色を楽しみました。不知火海(八代海)沿岸を走る区間では、その空と海の美しさから、皆さんもカメラを車窓に向けていました。



おれんじカフェが出発します



参加者の自己紹介



車窓から不知火海を展望します

約1時間の鉄道の旅を終え、水俣駅に到着した一行は、分科会会場・宿泊場所である、湯の児温泉「海と夕やけ」に移動し、いよいよ分科会「鉄道と共に歩む海辺の地域づくり」の開催です。

分科会では肥薩おれんじ鉄道や地域づくりに関して、3人のゲストから事例報告を行っていただきました。事例報告後には久木野ふるさとセンター愛林館の沢畑亨館長をコーディネーターに、「鉄道と地域の未来を語り合う」と題してパネルディスカッションを通して肥薩おれんじ鉄道と地域の活性化について熱い討論が行われました。

●事例報告

- ①肥薩おれんじ鉄道の取り組み (肥薩おれんじ鉄道 営業課長 葉丸剛氏)
(内容)経緯と現状、おれんじ食堂などの事業展開、沿線人口減などの課題
- ②鉄道と共に歩む地域づくり (葦北鉄砲隊 隊長 平江大八氏)
(内容)鉄砲隊創設の経緯、おれんじ鉄道での演武などエピソード披露
- ③地域のために私たちができること (漫画家 村枝賢一氏)
(内容)手描きイラスト実演、漫画家として自分にできることを実践



葦北鉄砲隊の事例報告



漫画家の村枝賢一氏の事例報告



報告者全員によるパネルディスカッション

最後に、実際に葦北鉄砲隊の演武を見てもらい、地域の伝統文化である「稲富流砲術」の素晴らしさを体感してもらいました。



葦北鉄砲隊の演武



地域の伝統文化を伝える



葦北鉄砲隊との交流

交流会は湯の児台地に不知火海を望む福田農場ワイナリーに会場を移し、地元の地域づくり関係者など総勢約50人で賑やかに行われました。開催地を代表して、西田弘志水俣市長から歓迎のあいさつをいただき、島田邦満芦北地域振興局長の乾杯で交流をスタート。津奈木舞鶴太鼓の演舞で来場者を歓迎しました。参加者は地域の食材や地酒などを堪能しつつ、意見を交換。地域づくりについて語り合いました。交流会終了後も、宿泊地では夜が更けるまで夜なべ談義が盛り上がっていました。



交流会～水俣市長の歓迎挨拶～



分科会交流会～乾杯～



交流会風景



交流会～歓迎アトラクション



交流会風景



交流会記念写真

【2日目】海辺のまちの地域づくり

2日目は貸切バスに乗車し、芦北町で開催された芦北観光うたせ船まつりの会場へ移動しました。途中、海の上の小学校跡として有名な津奈木町の旧赤崎小を見晴らしのいい道路上から見学。晴れ渡った天気の中、青い海にたたずむ校舎跡を目に焼き付けました。

うたせ船まつりでは、うたせ船に乗船し体験クルージングで沖合へ。海上で白い帆を上げた“海の貴婦人”うたせ船を見学しました。この日は、子どもたちの絵でデザインされた「虹色うたせ船」も帆を上げていて、いつもとは風情の異なるうたせ船を見ることができました。うたせ船乗船後は、会場で販売されていた海の幸で舌つづみをうちました。

その後、津奈木町に移動し、「つなぎふれあい祭り」で鯛飯やアジアカエビなど、お祭りの屋台から各々お好みの昼食をとりました。

分科会最後の目的地、つなぎ美術館では昨年度まで実施されていた住民参加型アートプロジェクト「赤崎水曜日郵便局」について、同館の楠本智郎学芸員が説明しました。

その後、「地域の課題解決ワークショップお題頂戴！」と題して、事前に各団体等から募集した地域の課題を「お題」としてグループ内で解決のためのアイデアを出してもらいました。

お題は「肥薩おれんじ鉄道の乗客増加」、「湯の児温泉の振興」、「うたせ船の未来」について、いずれの地域課題も将来への危機感からくる切実なものばかりでしたが、地元の住民も交えて、頭を悩ませながら現実的かつ前向きな提言が生まれ、これらアイデアは出題者へ還元されることとなります。



海上にたたずむ旧赤崎小学校



アートプロジェクト虹色うたせ船



うたせ船クルージング



つなぎふれあい祭りで昼食

●つなぎアートプロジェクト事例報告(つなぎ美術館 楠本智郎学芸員)

(内容)「赤崎水曜日郵便局」の取り組みについて

- ・手紙を書いた人に水曜日(=日常)の手紙が知らない誰かから届くユニークなシステム
- ・毎週水曜日にラジオで発信した。地域の住民を巻き込んで行った。

●地域課題解決のためのワークショップ お題頂戴！

- (お題) ○「湯の児温泉の景観等の資源を活かすためには？」
○「肥薩おれんじ鉄道にたくさんの人に乗ってもらうには？」
○「うたせ船を未来に残すためには？」



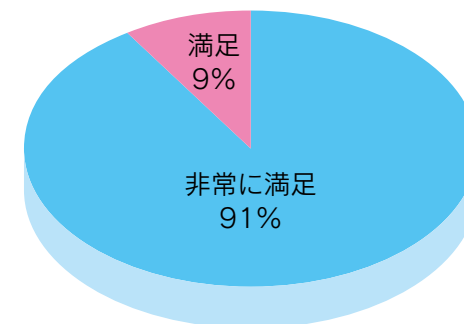
つなぎアートプロジェクト報告



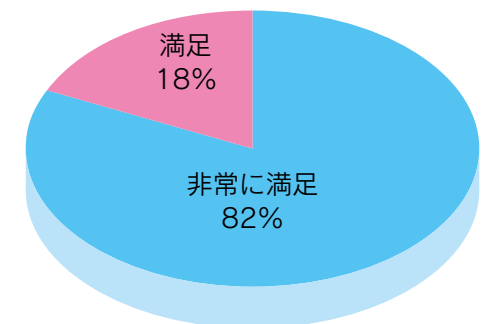
課題解決ワークショップ

分科会参加者からの意見・感想(分科会アンケートより)

(1)第9分科会(1日目)の評価



(2)第9分科会(2日目)の評価



■評価の高かった取り組みベスト3

- 1位 地域の伝統文化に触れる～葦北鉄砲隊演武～・交流会
- 2位 うたせ船クルージング体験
- 3位 事例報告「鉄道と共に歩む地域づくり」
～報告者：葦北鉄砲隊 隊長 平江大八～

■参加者からの感想

- ・関係者の方々が楽しそうにされていたのが印象的でした。地元の団体間の強いつながりを感じた。
- ・地域一帯を見てからの事例報告や交流会だったので分かりやすく、質問しやすい雰囲気だった。
- ・各事例だけでなく、参加されている水俣芦北地域の皆さまのまちへの思いが良く伝わってきた。
- ・見て食べて体感しての活動メインの1日でしたが、もう心もお腹も満杯です。
- ・おいしい料理、温かい町の方々とのおふれあい。とても素晴らしいと感じました。
- ・クルージングやアートなど水俣芦北地区の魅力に圧倒された。
- ・それぞれに熱い思いを持っている人がいて、つながりがあったら非常にうらやましいと思った。初日から話しやすい人が多くてよい経験となった。



夜なべ談議で盛り上がりました

第10分科会 人吉球磨ブロック



平成28年11月12日 国宝 青井阿蘇神社

テーマ 人吉・球磨 じかん 時感の旅 ~時を感じ五感に響く~

スケジュール

◇11月11日(金)

- 開催場所：郷土の家庭料理「ひまわり亭」
- 14:00~14:30 歓迎レセプション
総踊りKUMAKOI六調子
主催者挨拶 ひとくまねっと代表 遠山好勝
- 14:30~15:00 記念講演 郷土史家 前田一洋
「球磨焼酎を育てた人吉盆地」
- 15:00~16:00 基調講演「ひまわり亭」代表 本田節
「熊本地震と地域づくり、そして命」
- 16:00~17:00 トークセッション 養父信夫
- 17:00~19:00 人吉球磨、秋の食の文化祭
「命の食事～一食一心～」
- 19:30~ 農家民宿でそれぞれに交流会の開催

◇11月12日(土)

- 8:00~13:30 人吉球磨地域を4エリアに分けてコミュニティ分科会の開催
- ①奥球磨エリア 水上村キャンプ場=市房杉散策=市房ダム湖散策=多良木町石倉=くま川鉄道で人吉駅
- ②中球磨エリア あさぎり町物産館=松尾集落=錦町道の駅=松の泉酒造「蔵見学」=おかどめ幸福駅=くま川鉄道で人吉駅
- ③秘境球磨エリア 相良村四浦和紙工房「紙すき体験」=山江村「時代の駅むらやくば」=ボンネットバスで人吉駅
- ④人吉下球磨エリア 人吉市鍛冶屋町散策「ウンスンカルタ体験」=球磨村田舎の体験交流館「さんがうら」=一勝地茶屋=人吉駅
- 13:30~15:00 国宝「青井阿蘇神社」散策と社殿での参拝及び記念撮影



郷土の家庭料理「ひまわり亭」の様子

11月11日、第10分科会は全国からの参加者17名と九州ツーリズム関係者、地元参加者を合わせた約140名が郷土の家庭料理「ひまわり亭」に集い開催しました。分科会は記念講演と基調講演で熊本地震と後方支援のあり方、トークセッションで地域が抱える問題提起を行いました。秋の食の文化祭で郷土料理を堪能していただき農家民宿で田舎満喫です。

11月12日は人吉・球磨ブロックを4つのエリアに分けて地域のオリジナルや美味しい企画のコミュニティ分科会を開催しました。最後に国宝青井阿蘇神社の社殿で健康祈願と大会の成功を祈願しました。

【11月11日】 第10分科会開会式



地元の『エアロステップⅡ』の皆さんによる歓迎アトラクションで元気にお出迎えをしました。



郷土史家：前田一洋先生の記念講演

「球磨焼酎を育てた人吉盆地」と題して、日本遺産認定された人吉球磨地域の文化をご講演いただきました。



郷土の家庭料理「ひまわり亭」代表 本田節先生の基調講演

「熊本地震と地域づくり、そして命」と題して熊本地震の発生直後からひとくまねっと(人吉球磨ブロック)が支援に即応して阿蘇地域に向かったことや、これまでの後方支援の経緯と人とのつながりについて基調講演がありました。地域づくりの中で築いてきた人と

人とのネットワークがなければ熊本地震での支援もできなかった事が報告され、メイン会場である郷土の家庭料理「ひまわり亭」で支援物資や炊き出しの下ごしらえをしたことなど、命を繋ぐ食の大切さを強調されました。



九州のムラ 養父信夫さんによるトークセッション

田舎だからこそできるツーリズムのプラットフォーム化を具体化して経済的な自立に繋げるなど活発な意見も。



秋の食の文化祭

郷土色豊かな田舎料理は注目の的です。今が旬の秋を堪能してもらいました。球磨焼酎組合からご協賛で28銘柄の焼酎を蔵出ししていただきました。自然に育まれた人吉球磨地域の美味しい水とお米から作られた焼酎。記念講演を思い出しながら酔い心地満点です。

【11月12日】4つのコミュニティ分科会

①奥球磨エリア(水上村・湯前町・多良木町)



水上村市房キャンプ場



市房杉散策



1000年杉はパワースポット。寝ころぶと杉の巨木と広がる枝が小宇宙のように感じました。多良木町石倉で手作り弁当を食べながら交流を行いました。くま川鉄道のワンピースラッピング列車で車窓から田園の風景を楽しみながら人吉温泉駅に向かいました。

②中球磨エリア(あさぎり町)



中山間松尾集落の散策とさくら庵での意見交換を行いました。四戸の集落で立地条件を生かした農泊の実現性について春蘭の里 多田さんと意見交換をしました。とにかく一歩進むことから始めることが肝要であるとアドバイスを受けました。頑張ります。



松の泉酒造での昼食と蔵見学を行いました。だご汁は郷土料理の看板メニューでとても美味しかったです。又、焼酎蔵では昔ながらの甕仕込みが説明され、林さんから「正調五木の子守歌」がサプライズ披露されました。蔵の雰囲気と相まってとても印象的でした。

この後、岡留幸福駅を散策しました。全国で幸福の名前が今も残る唯一の駅舎でラッピング列車を待ちました。

③秘境球磨エリア(相良村・山江村・五木村)



相良村四浦和紙工場の紙すき体験を全員が行いました。繊維とのりを均等にのばすのが至難の業です。

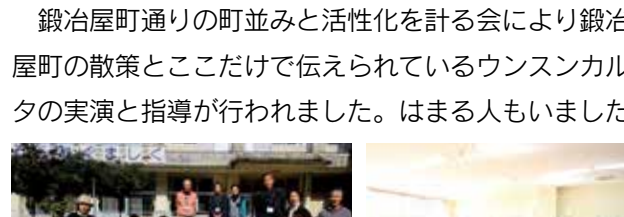


山江村役場として使用されていたレトロな「時代の駅むら役場」で昼食です。平成4年に走る産業遺産として導入されたボンネットバス「マロン号」で青井阿蘇神社に移動しました。このバスもレトロです。

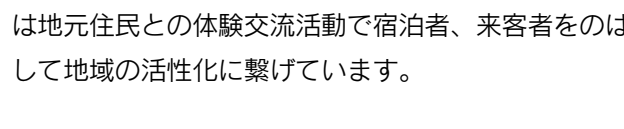
④人吉・下球磨エリア(人吉市・球磨村)



鍛冶屋町通りの町並みと活性化を計る会により鍛冶屋町の散策とここだけで伝えられているウンスンカルタの実演と指導が行われました。はまる人もいました。



球磨村では旧小学校を再利用した田舎の体験交流館「さんがうら」で研修交流を行いました。「さんがうら」は地元住民との体験交流活動で宿泊者、来客者をのばして地域の活性化に繋がっています。



分科会のねらい

- サブタイトル「熊本地震と地域づくり、そして命」人と人を紡ぎ合わせるツーリズム、命のツーリズムを展開する足がかりにすることが目的。
- 熊本地震の復興なくして地域づくりはないとの思いから熊本地震を風化させないこと。
- 熊本地震をこの目で見、聞いてみること。
- 田舎だからこそできるツーリズムのプラットフォーム化を具体化し経済的な自立に繋げること。

全国から第10分科会に参加していただいた皆様、大変有り難うございました。直前の地震発生による道路事情の混乱もあり、絶えず自然災害に向き合う日々が続いた一年間でした。思い返しますと奇しくも5年前第29回熊本大会を前にして東日本大震災が発生し、悔しい中に大会の中止をいたしました。自然災害とはいえ、甚大な人的被害もある中ではありますが、ぜひこの全国大会で復興する熊本を見ていただきたいとの思いから開催に踏み切りました。

「第10分科会」では、熊本地震の支援と地域づくりなど地震の後方支援にかかわりあいながら、どのように地域づくりを行っていくかについてトークセッション

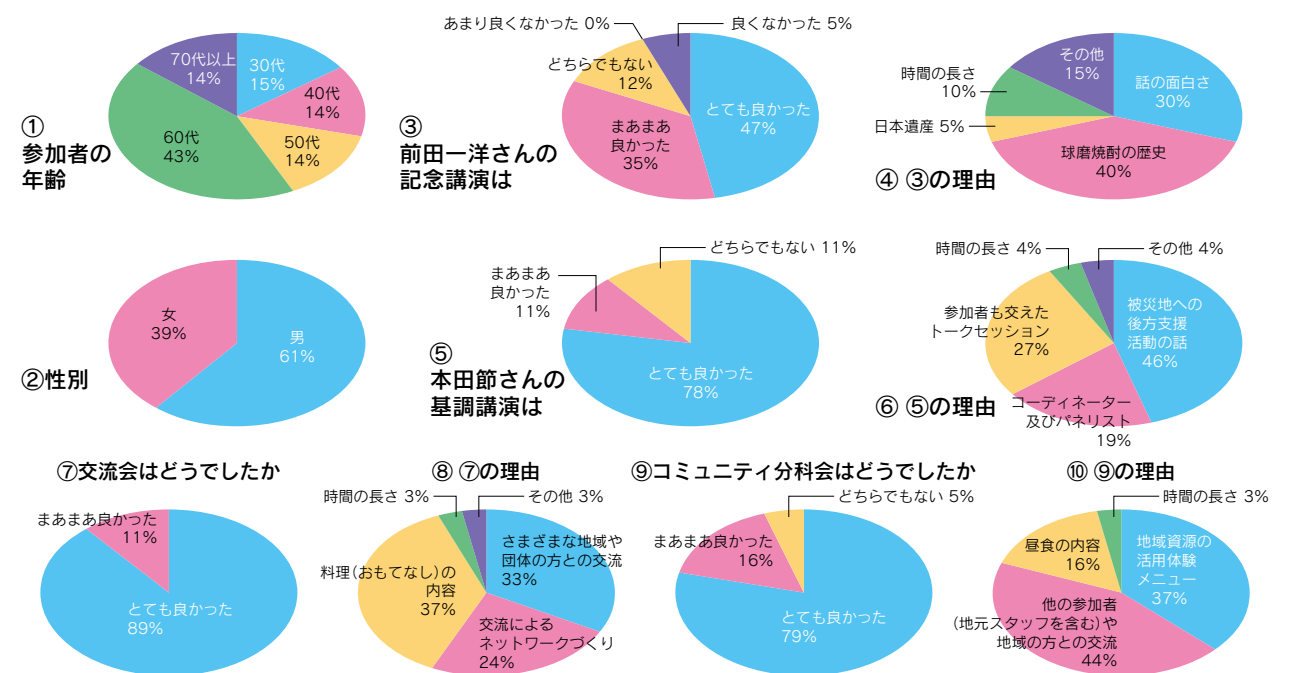
をいたしました。分科会のねらいと併せて参加者の皆様には課題解決の糸口が見えたでしょうか。球磨焼酎と食でのおもてなし、そして農家民宿と趣向を凝らしたコミュニティ分科会はいかがでしたか。準備不足は否めませんが地域づくりに取り組む皆さんの姿勢に背中を押されました。これまでご指導くださいました熊本県、市町村様そしてひとくまねつとの皆さんの協力と努力の成果として、第10分科会 熊本大会のすべてが素晴らしい成果を残すことができました。お疲れ様でした。

しかし、これから全国大会の経験をどう生かすかが課題です。みんなが一致協力すれば、素晴らしい事業が展開できることを証明した訳ですから、これからも参加団体の一つ一つにスポットを当てて地道な活動を応援して参ります。これからも、人吉球磨地域が元気になるようにスクラムを組んでいきましょう。

有り難うございました。そしてこれからもよろしくおねがいします。地域で頑張る皆さんに応援のエールを送ります。「フレイフレーみんな、そして自分」



アンケート集計結果



第11分科会 天草ブロック



テーマ 海との共生～天草五橋開通50周年の天草へ～

スケジュール

◇11月11日(金)

- 14:00 熊本駅白川口前 集合
- 14:37 特急「A列車で行こう」出発
- 15:17 三角駅 到着 海上タクシーで天草へ
- 16:30 前島到着
- 17:00 上天草市松島庁舎3F 大会議室
- 18:30 リゾラテラス天草到着
- 19:00 交流会
- 21:00 夜なべ談義

◇11月12日(土)

- 9:00 ホテル出発
- 9:30 維和島ウォーク(九州オルレコース)
- 12:00 みかん狩り体験・昼食
- 13:30 車海老養殖場視察
- 14:30 藍のあまくさ村 見学
- 15:10 三角西港 見学
- 17:30 全体交流会会場(山鹿市) 到着

天草は海に囲まれ、雲仙天草国立公園に指定されるなど、自然が豊かな地域です。また、天草松島や天草灘では美しい景観を楽しめます。

11分科会では、このような豊かな海資源を活用した取り組みを実施しました。特急「A列車で行こう」、海上タクシー、九州オルレ認定コースウォーク体験、みかん狩り体験、車海老養殖場見学など、天草の【海】【島】を堪能し、かつ地域活性化の軸となる素材を感じていただきました。



【1日目】11月11日(金)

天草ブロックでは分科会最多となる38名の参加者を受け付けた。当日は震度4の余震が熊本を襲い、一部が高速道路で一時足止めされるなど予想外のトラブルがあったものの、集合時間には無事に全員が揃うことができた。

熊本駅を出発後、特急「A列車で行こう」に乗車し三角駅へ移動。車内では珍しいバーカウンターでの対面販売や、車窓から眺める有明海の様子などを楽しんだ。三角駅に到着後、参加者を出迎えた上天草市のPRキャラクター“四郎くん”との記念撮影を行い、5班に分かれ、維和まちづくり実行委員会が運営する海上タクシーに乗船。

天草の玄関、一号橋や、現在建設中の新一号橋、昨年登録された世界文化遺産の三角西港を眺め、雄大な天草灘の景色を体感しながら、約45分の船旅を終えて上天草市松島町前島港に到着。前島港では地元松島保育園の鼓笛隊が歓迎を行った。



特急「A列車で行こう」車内の様子



上天草市のPRキャラ四郎くんと



海上タクシーでの移動



建設中の新一号橋を船上から

その後、上天草市松島庁舎にて堀江市長及び山口県議の歓迎のあいさつの後、維和地区まちづくり実行委員会 鬼塚泰英会長による地域のまちづくり事例発表を行い、「維和島オルレ」「天草四郎が通ったかもしれない道」「みかんの木オーナー制度」等の成果を発表。“島”や“海”、“天草四郎”など、維和島にまつわる地域資源を活用したユーマアあふれる取り組みに、笑いを交えながらの懇談となった。



四郎くんのお出迎え



参加者からの質疑応答



維和まちづくり事例発表



交流会での上天草 慈秀よさこい演舞

事例発表後、上天草市の新しい観光スポット、「リゾラテラス天草」で行われた交流会では、参加者が日本全国各地から持ち寄った地元の特産物で抽選会を行い、喜んでいただいたほか、地元よさこいチーム「上天草 慈秀」の演舞が披露され、大いに盛り上がった。来賓の堀江上天草市長には、その後の夜なべ談義まで参加していただいた。

【2日目】11月12日(土)



朝のミーティング



西大維橋からの景観を楽しむ

早朝ホテルを出発後、参加者は維和島へ移動、昨日の事例発表で講座を開いた鬼塚泰英会長自らガイドとして「維和島オルレ」の一部を散策した。オルレとは、韓国・濟州島から始まったトレッキングコースで、もともとは濟州島の方言で「通りから家に通じる狭い路地」という意味。上天草市では全国でも珍しく、松島町と維和島に2本のオルレコースを備え取り組みを推進している。

当日は好天にも恵まれ、参加者は島暮らしの生活感を感じる路地や、海岸などのトレッキングコースを歩き、天草の風土と自然を体感していただいた。大矢野島と維和島とを結ぶ西大維橋からの絶景には声があがり、ドローンを使って記念撮影を行った。その後、事例発表で説明のあった「天草四郎が通ったかもしれない道」と、「みかんの木オーナー制度」の現地を視察。ユニークな視点からの地域資源の掘り起こしに、参加者は熱心に耳を傾け聞き入っていた。昼食は地元の食材をふんだんに使った特製弁当を維和さくら公園でいただき、その後、車海老の養殖場の見学を行った。特産品である車海老の踊り食い舌打ち、参加者はそれぞれ島暮らしの魅力を楽しんだ。



維和島の歓迎横断幕



説明を熱心に聞き入る参加者



西大維橋を歩く



西大維橋を背景に説明に熱心に耳を傾ける

まとめ

第11分科会 海との共生 ～天草五橋開通50周年の天草へ～

県外参加者38名 県内参加者18名(分科会交流会)

分科会の中でも最多の参加希望をいただき、事前連絡などで多少戸惑うところはあったものの、分科会当日は好天に恵まれ、ほぼ時間通りに予定していたスケジュールを消化することができた。中でも交流会では、参加者との交流を密に図ることができ、地域間交流の一環として大変意義のある分科会となった。

反省点として、事前の役割分担が不十分だったため直前まで対応に追われたので、企画段階から役割分担を明確に、スケジュール毎の引き継ぎを意識する必要があった。時間に余裕があれば運営の予行練習があっても良かった。

参加者の意見

- ◆上天草の皆さまに感謝いたします。維和島の現状、まちづくりの状況を歩いてみることでよく分かりました。
- ◆市長自ら分科会・交流会、二次会まで参加いただき、力の入り方を実感しました。
- ◆天草のまちづくりをしている人たちの熱意はすごかった。ウォーキングもでき、楽しかったが、時間におされ、あまりゆっくりできなかった。



熊本県内のさまざまな地域から料理やお酒が集まり、参加者の皆さんは熊本の食文化に舌鼓を打ちました



全体交流会



1.多くの来賓の皆さんにご参加いただきました/2.古家副実行委員長の「かんぱーい!」/3.山鹿市長の歓迎あいさつ/4.山鹿太鼓の演奏から交流会はスタート/5.実行委員のメンバーで記念撮影/6.次回開催の香川県の皆さんが次回大会をPR

平成28年11月12日、天聴の蔵(熊本県山鹿市)で開催した全体交流会。全国から参加した約400人が交流を深めました。山鹿太鼓の演奏のあと、中嶋憲正山鹿市長の歓迎あいさつで交流会はスタート。旧酒蔵群である「天聴の蔵」を5つに分けた会場では、参加者の皆さんが、さまざまな郷土料理に舌鼓を打ちながら、食を通して熊本の文化を知り、地域づくりを語りながら、交流を深めました。会場の中庭では、竹明かりが優雅なムードを演出、参加者の皆さんの笑顔と笑い声で全体交流会の夜は盛り上がりました。





第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会の全体会は、平成28年11月13日、八千代座(熊本県山鹿市)で開催。大会は、映画「うつくしいひと」のチャリティ上映から始まりました。参加者に熊本地震前の熊本を映画で見てもらい、山鹿灯籠踊りを披露。その後、各分科会の報告や熊本地震に関する報告を行いました。くまモンのサプライズ登場や大会終了後、焼いものふるまいなど、おもてなしの気持ちを込めた全体会。参加者同士も別れを惜しみながら、次回大会である香川県での再会を誓い合っていました。



分科会 報告



熊本地震に関する報告 事例発表や パネルディスカッション

全体会



参加者一覧 (氏名及び団体・勤務先等は順不同)

都道府県	団体・勤務先など	氏名
------	----------	----

第1分科会

福島県	福島県	永田 嗣昭
福島県	福島県	大木 崇史
福島県	NPO法人うつくしまNPOネットワーク	鈴木 和隆
福島県	NPO法人うつくしまNPOネットワーク	成澤 直紀
群馬県	前橋市役所	高山 祥平
群馬県	永明地区地域づくり協議会	深谷 茂
石川県	NPO法人のとてきシマツツジの郷	大路 篤夫
奈良県	奈良県地域づくり団体協議会	永野 正樹
鳥取県	とっとり県民活動活性化センター	毛利 葉
鳥取県	日南町役場	牧 恭平
香川県	三木町役場 政策課	富田 浩之
香川県	三木町役場 政策課	上原 貴宏
香川県	公益財団法人中津万象園保勝会	真鍋有紀子
香川県	五郷里づくりの会	藤田 一
香川県	まちづくり推進隊仁尾	西山 弘茂
香川県	まちづくり推進隊仁尾	吉田 誉範
香川県	まちづくり推進隊仁尾	中井日出子
香川県	まちづくり推進隊仁尾	山中 誠
香川県	まちづくり推進隊仁尾	西 司
香川県	まちづくり推進隊仁尾	浪越 理奈
香川県	NPO法人まちづくり推進隊高瀬	高木 知巳
香川県	さぬき市役所	山下 和久
香川県	さぬき市役所	鎌野 勝信
香川県	結願の里多和の会	真部八千億
香川県	高松市役所	岡野 恭子
長崎県	長崎県地域づくりネットワーク協議会	松本 尚由
長崎県	長崎県地域づくりネットワーク協議会	蛭子 賢三
沖縄県	沖縄県企画部	清水 啓介
熊本県	満天くらぶ	小橋川卓也
熊本県	IOB	江浦 誠
熊本県	グラント12	福島 貴志
熊本県	熊本市地域活動推進課	桑野 恭輔
熊本県	小町ウイング	木村 彰
熊本県	小町ウイング	工藤 明美
熊本県	小町ウイング	富吉美紀子
熊本県	小町ウイング	橋本 智子
熊本県	水前寺プロジェクトチーム	松本 幸
熊本県	水前寺プロジェクトチーム	永野 陽子
熊本県	水前寺プロジェクトチーム	田中 祐二
熊本県	川尻商店街連合会	田中 雅代
熊本県	川尻商店街連合会	栗崎 剛
熊本県	川尻商店街連合会	福山龍太郎
熊本県	川尻商店街連合会	田崎 雅義
熊本県	川尻青年協議会	増永 良徳
熊本県	川尻青年協議会	益本 武士
熊本県	川尻青年協議会	松尾誠志郎
熊本県	川尻青年協議会	金井 俊行
熊本県	川尻青年協議会	榊 良太
熊本県	一新まちづくりの会	北村 直登
熊本県	一新まちづくりの会	毛利 秀士

都道府県	団体・勤務先など	氏名
------	----------	----

熊本県	一新まちづくりの会	本田 元治
熊本県	一新まちづくりの会	橋本 和彦
熊本県	一新まちづくりの会	仁田 信二
熊本県	一新まちづくりの会	森本 明憲

第2分科会

群馬県	桂萱地区地域づくり推進協議会	真下 靖
石川県	輝け白山	金丸 和弘
石川県	石川地域づくり協会運営委員	安田 薫
福井県	福井市総務部	谷口 智樹
香川県	五郷里づくりの会	徳善 久人
香川県	香川県政策部	吉田 恵
福岡県	小郡市役所	武久 香
福岡県	くろめネイチャーゲームの会・青峰保育園	時井 純子
佐賀県	さざんか塾	古賀 千寸
長崎県	長崎県	近藤 和彦
宮崎県	霧島おむすび自然学校	豊岐 博彦
沖縄県	中部広域市町村圏事務組合	小浜 守作
沖縄県	かりゆし塾同窓会	新里 徳三
沖縄県	伊計島の十一班	島袋 次郎
東京都	地域づくり団体全国協議会	松井 啓城
熊本県	美里フットバス協会	井澤るり子
熊本県	美里フットバス協会	濱田 孝正
熊本県	三角西港ファンクラブ	斎藤 万芳
熊本県	松橋わさもん塾	末松 直洋
熊本県	松橋わさもん塾	林田健太郎
熊本県	松橋わさもん塾	藤本 太平
熊本県	宇城地域振興局	米村 浩平

第3分科会

石川県	石川地域づくり協会	谷口 健一
石川県	NPO法人のとてきシマツツジの郷	政田 成利
福井県	みくにみらい塾	上出 純宏
静岡県	静岡県政策企画部政策推進局	大谷 哲也
岡山県	総社仕掛人の会	河田 雅史
香川県	丸亀市文化財観光案内会	都築 克徳
香川県	五郷里づくりの会	藤岡 紘
福岡県	福岡県	兼武裕次郎
宮崎県	宮崎県	東原 擁慈
沖縄県	沖縄県地域づくりネットワーク事務局	桂 浩史
沖縄県	沖縄県地域づくりネットワーク事務局	山城 定雄
東京都	地域づくり団体全国協議会	大月 将弘
東京都	地域づくり団体全国協議会	洪澤 大樹
熊本県	小岱山薬草の会	宮永マス子
熊本県	二小元気会	一二三 宏
熊本県	小岱山薬草の会	坂本 正詮
熊本県	荒尾市役所	濱北宏一郎
熊本県	荒尾市役所	東 直人
熊本県	南関町役場	平嶋 一成
熊本県	玉東町役場	河村 圭亮
熊本県	玉名市役所	石貫 誠哉
熊本県	玉名市役所	堺 大輔

都道府県	団体・勤務先など	氏名
------	----------	----

熊本県	玉名市役所	大久保綾華
熊本県	玉名地域振興局	濱治 優一

第4分科会

宮城県	三本塚集落資源保全隊	小野 吉信
宮城県	三本塚集落資源保全隊	佐藤 幸昭
宮城県	三本塚集落資源保全隊	遠藤 喜一
宮城県	三本塚集落資源保全隊	大友 幸広
宮城県	三本塚集落資源保全隊	佐藤 敏之
宮城県	三本塚集落資源保全隊	佐藤 稔
宮城県	三本塚集落資源保全隊	菊地貞一郎
福島県	福島県	高田 義宏
石川県	放送大学大学院	MORI Keiko
石川県	能登町役場	五田 秀綱
石川県	石川県	渡辺 直英
福井県	みくにみらい塾	谷川 辰夫
兵庫県	養田まちづくり委員会	小田 稔
鳥取県	とっとり県民活動活性化センター	池淵 菜美
鳥取県	日野上まちづくり協議会	安達 茂樹
岡山県	赤磐市役所	藤田 啓二
岡山県	赤磐市役所	拝郷 紀行
広島県	呉市役所	清原 秀樹
広島県	呉市まちづくりサポーター	中岡 博美
広島県	呉市役所	上垣 慎一
香川県	NPO法人まちづくり推進隊高瀬	豊島夕起子
香川県	NPO法人まちづくり推進隊財田	大石 秀子
香川県	宇多津町役場	北山 広二
佐賀県	西有田国際交流アミゴス倶楽部	藤川 省三
佐賀県	NPO法人佐賀県CSO推進機構	川副 知子
佐賀県	さざんか塾	多良 淳二
長崎県	長崎県	梅田真由美
宮崎県	喫鳴会	野川喜美子
沖縄県	天願生き活き会	照屋 勇
沖縄県	沖縄県企画部	根岸 絵里
熊本県	山鹿市長	中嶋 憲正
熊本県	山鹿市市民部部長	阿蘇品貴司
熊本県	山鹿市市民部次長	宮崎 錦也
熊本県	山鹿市地域生活課課長	池田 淳志
熊本県	山鹿市地域生活課審議員	隈部 光磨
熊本県	山鹿市地域生活課	阪本 麻子
熊本県	山鹿市地域生活課	森 友紀
熊本県	山鹿市地域生活課	船津 理文
熊本県	山鹿市地域生活課	平 のどか
熊本県	未来ネット山鹿	古家 公晴
熊本県	熊本県建築士会山鹿支部まちづくり景観研究部会	福山 博章
熊本県	熊本県建築士会山鹿支部まちづくり景観研究部会	前田 昌宏
熊本県	熊本県建築士会山鹿支部まちづくり景観研究部会	小原 宣子
熊本県	山鹿もてなしたい	山本 博
熊本県	NPO法人 ひらおぎ	石井 健一
熊本県	NPO法人 ひらおぎ	橋本 尚子
熊本県	NPO法人 幸の会	南方 詔雄
熊本県	NPO法人 幸の会	田中 智典
熊本県	NPO法人 幸の会	大木マリ子
熊本県	NPO法人 幸の会	野口 昭政
熊本県	NPO法人 幸の会	平井 和美

都道府県	団体・勤務先など	氏名
------	----------	----

熊本県	NPO法人 幸の会	古家 茂臣
熊本県	NPO法人 幸の会	小川 栄二
熊本県	農業体験「八三会」	上田 敏広
熊本県	農業体験「八三会」	上田 博子
熊本県	農業体験「八三会」	古田 淳也
熊本県	農業体験「八三会」	古田久美子
熊本県	農業体験「八三会」	古家 恵子

第5分科会

青森県	中泊町役場	下山和賀子
青森県	中泊グリーン・ツーリズムの会「かけはし」	神 かづ子
青森県	中泊グリーン・ツーリズムの会「かけはし」	長利 和子
群馬県	群馬県企画部地域政策課	竹中 学
石川県	石川県	守田 知仁
福井県	奥越前まんまるサイト	坂本 均
滋賀県	滋賀県総務部	小島 慎平
鳥取県	鳥取県元気づくり総本部元気づくり推進局	山根 絵美
鳥取県	大宮まちづくり協議会	田辺 次良
島根県	跡市地区まちづくり協議会	島田 博
島根県	跡市地区まちづくり協議会	森脇 悦朗
香川県	丸亀市若手職員まちづくり研究チーム	伊藤 傑
香川県	NPO法人まちづくり推進隊詫間	田中 達也
香川県	坂出市役所	木下 昌和
香川県	坂出市役所	吉川 明人
香川県	王越町共に生きるまちづくり推進協議会	北山 定男
佐賀県	からつ夢バンク	伊東 秀明
長崎県	対馬ラテンフェスティバル実行委員会	中山 浩邦
長崎県	NPO法人DONDON奈留	渡邊 浩平
長崎県	長崎県	島本 勝行
長崎県	NPO法人カメラア五島	網本 定信
長崎県	NPO法人カメラア五島	濱里 恒敏
宮崎県	NPO法人宮崎文化本舗	壺岐 公晴
沖縄県	イングリッシュまちづくり市民の会	高平 兼司
沖縄県	沖縄県企画部	上野 孝貴
熊本県	まちづくりこうし隊	井 博文
熊本県	まちづくりこうし隊	長尾 隆
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	田端真知子
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	渡辺千恵子
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	池田 勝代
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	木永 由美
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	横山 茂子
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	長尾 純恵
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	福嶋求仁子
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	高木はるみ
熊本県	まちなっと“セラヴィ”	坂本 早苗
熊本県	すみっこの台所	吉村 明子
熊本県	すずかけ台魅力化委員会	江崎 孝俊
熊本県	菊陽町文化財ボランティアガイドの会	矢野 誠也
熊本県	菊陽町文化財ボランティアガイドの会	城 良明
熊本県	菊陽町文化財ボランティアガイドの会	上村 賢吾
熊本県	菊陽町文化財ボランティアガイドの会	松本 東亜
熊本県	NPO法人きらり水源村	松崎 勝己
熊本県	菊陽町役場	西山 昌憲
熊本県	合志市役所	大茂 竜二
熊本県	合志市役所	牧野 淳一

都道府県	団体・勤務先など	氏名
熊本県	合志市役所	加藤 大蔵
熊本県	大津町役場	岩下 潤次
熊本県	菊池市役所	古庄 和彦
熊本県	菊池市役所	宮田 宏美
熊本県	菊池市役所	坂口 啓介
熊本県	県北広域本部 振興課	柴田 洋輔

第6分科会

埼玉県	埼玉県	五十里圭亮
石川県	法政大学	水野 雅男
石川県	ライフスタイル	須貝 友貴
兵庫県	兵庫県庁	栗川 知久
鳥取県	大山町地域おこし協力隊	青木 郷香
宮崎県	NPO法人五ヶ瀬自然学校	杉田 英治
宮崎県	宮崎県	都留 翔平
沖縄県	宮古島市役所	恩河 慶
東京都	地域づくり団体全国協議会	岡崎 昌之
東京都	地域づくり団体全国協議会	宮本 明人
熊本県	九州バイオマスフォーラム	中坊 真
熊本県	一般財団法人学びの里	江藤理一郎
熊本県	阿蘇地域振興局総務課	有田 貴恵
熊本県	阿蘇地域振興デザインセンター	江藤 訓重
熊本県	阿蘇地域振興デザインセンター	長浜 光平

第7分科会

栃木県	栃木県総合政策部地域振興課	谷口 寛明
石川県	NPO法人のとけりシマツツジの郷	綱屋 保治
石川県	花咲く湯涌・まちづくりネットワーク推進プロジェクト	足立 泰夫
和歌山県	和歌山県	仁坂 沙織
香川県	観音寺市役所	白川 靖彦
香川県	観音寺市役所	竹下 明伸
香川県	五郷里づくりの会	藤岡 修
香川県	三豊市役所	神原 達
香川県	まんのう町役場	迎 弘季
香川県	社会福祉法人 松寿会	堤 道彦
香川県	社会福祉法人 松寿会	川田 将弘
香川県	社会福祉法人 松寿会	河合 正嗣
長崎県	対馬市上対馬振興部	菅田奈緒美
宮崎県	みやこんじょ力俣組合	中村 光彦
沖縄県	沖縄県企画部	山崎 柗平
熊本県	北田代 美緑のむら里	松原 茂
熊本県	北田代 美緑のむら里	松原 京子
熊本県	和楽美の里 愛郷吉無田	吉澤 勝美
熊本県	特定非営利活動法人 丸山ハイランド	藤本千代美
熊本県	特定非営利活動法人 丸山ハイランド	前田あゆみ
熊本県	特定非営利活動法人 丸山ハイランド	竹下 美敬
熊本県	緑仙峡開発振興会	緒方慎治郎
熊本県	NPOこうさEMの会	坂本 敬一
熊本県	益城だいきプロジェクト きままに	吉村 静代
熊本県	上益城地域振興局	赤松 薫
熊本県	甲佐町役場	吉本 康昭
熊本県	御船町役場	藤本 龍巳
熊本県	御船町役場	高橋 寛敦
熊本県	御船町役場	細木 芙美
熊本県	山都町役場	本田 潤一

都道府県	団体・勤務先など	氏名
熊本県	山都町役場	藤原 章吉
熊本県	山都町役場	中川 雄貴
熊本県	熊本県立大学	野口 慎吾
熊本県	益城だいきプロジェクト きままに	松舟 陽一
熊本県	益城だいきプロジェクト きままに	柳井理美子
熊本県	御船町役場	藤江 亮太

第8分科会

青森県	未来創造ひらない塾	森田 泰男
石川県	赤須企画事務所	赤須 治郎
石川県	中庄町丸いも倶楽部	本 忠儀
福井県	あわら湯けむり創生塾	前田 健二
福井県	あわら湯けむり創生塾	笹原 修之
三重県	桑名の千羽鶴を広める会	大塚由良美
三重県	手づくり工房・ワイワイ	井谷三枝子
三重県	手づくり工房・ワイワイ	河合 千尋
三重県	手づくり工房・ワイワイ	東 典代
三重県	ふるさと応援実行委員会	小泉 恵美
鳥取県	日野上まちづくり協議会	松本 智子
香川県	香川県政策部	秋吉 直樹
香川県	みとよ100年観光会議	森 さくら
福岡県	福岡県ささゆりのように	三次 文子
佐賀県	からつ夢バンク	岡野 利哉
宮崎県	やっちみろかい酒谷	日高 茂信
沖縄県	沖縄県地域づくりネットワーク事務局	立石有貴子
熊本県	NPO法人熊本県海難救助隊	木村 博幸
熊本県	五家荘地域振興会	炭 尚之
熊本県	五家荘地域振興会	中村 和博
熊本県	泉観光ガイド・インストラクター協会	高尾 昇二
熊本県	「九月は日奈久で山頭火」実行委員会	佐藤 タエ
熊本県	「九月は日奈久で山頭火」実行委員会	坂口 祐弘
熊本県	NPO法人 ネット八代	岡田 敏代
熊本県	八代市役所	上村 圭介
熊本県	八代市役所	宮川 武晴
熊本県	熊本県県南広域本部振興課	松本 浩明
熊本県	ひかわツーリズムクラブ	高山 登

第9分科会

福井県	NPO法人農と地域のふれあいネットワーク	多田 憲市
鳥取県	鳥取県元気づくり総本部元気づくり推進局	梶谷 彰男
香川県	香川県	後藤 努
香川県	香川県政策部	小野裕美子
香川県	NPO法人まちづくり推進隊詮問	田尾亜希子
香川県	多度津町役場	植松 肇
香川県	つながりプロジェクト	水口 浩仁
香川県	つながりプロジェクト	三木 佳代
沖縄県	沖縄県企画部	松堂 輝彦
東京都	地域づくり団体全国協議会	安楽 良太
東京都	地域づくり団体全国協議会	長友 弥生
熊本県	寄ろ会みなまた	下田 國義
熊本県	寄ろ会みなまた	桑畑 好継
熊本県	寄ろ会みなまた	廣島 康雄
熊本県	水俣市教育委員会	櫻井 健
熊本県	水俣市教育委員会	鬼塚 枝里
熊本県	古石緑創会	岩間 勇治

都道府県	団体・勤務先など	氏名
熊本県	古石緑創会	上野 友晴
熊本県	水俣市野外活動協会	田畑 健二
熊本県	湯浦たぎろう会	森下 國博
熊本県	芦北地域振興局	植竹 慧介
熊本県	水俣市役所	柿本 英行
熊本県	水俣市役所	山田 大悟
熊本県	芦北町役場	藪田 真平
熊本県	芦北町役場	原田絵理咲
熊本県	佐敷地区町並み保存会	窪田 光枝

第10分科会

石川県	いしかわ介護ボランティアセンター	三津井 司
石川県	石川県地域づくり協会 (株)アスリック	濱 博一
石川県	石川地域づくり協会	山田 悟司
石川県	石川地域づくり協会	大湯 章吉
石川県	春蘭の里実行委員会	山崎 増雄
石川県	春蘭の里実行委員会	多田喜一郎
石川県	春蘭の里実行委員会	平根 雅人
福井県	稼げる街づくり実行委員会	石川 浩代
兵庫県	淡路ふるさと塾	木村 幸一
兵庫県	兵庫県庁	甘利 英治
鳥取県	やらいや逢坂	岡崎 恭介
愛媛県	せいよ地域おこし協力隊	茂木美津子
長崎県	野母崎で音楽を聴く会	山本 春菜
長崎県	万葉の風	吉田 完司
長崎県	長与オリーブ振興協議会	山田 勝俊
長崎県	(有)シユシユ	山口 成美
熊本県	地域づくり団体全国協議会	本田 節
東京都	地域づくり団体全国協議会	加藤 淳子
熊本県	中山間松尾集落	遠山 好勝
熊本県	あさぎり町グリーンツーリズム研究会	豊永 一歩
熊本県	あさぎり町グリーンツーリズム研究会	遠山 優矢
熊本県	さがら村グリーンツーリズム研究会	牧山規矩子
熊本県	さがら村グリーンツーリズム研究会	高尾由紀子
熊本県	さがら村グリーンツーリズム研究会	徳田真由美
熊本県	さがら村グリーンツーリズム研究会	乙益 隆道
熊本県	田舎の体験交流館「さんがうら」	小川 聡
熊本県	多良木町グリーンツーリズム研究会	深水 良子
熊本県	多良木町グリーンツーリズム研究会	宮本 裕子
熊本県	人吉市グリーンツーリズム推進協議会	上井 信子
熊本県	人吉市グリーンツーリズム推進協議会	山上 修一
熊本県	人吉市グリーンツーリズム推進協議会	深水 澄
熊本県	球磨地域振興局	村上 稔
熊本県	球磨地域振興局	田島裕美子
熊本県	人吉市役所	松島 泰代
熊本県	NPOかちヤリンク	本山 民子
熊本県	NPOかちヤリンク	秋丸 光明
熊本県	ゆのまえGT未来ねっと	藤本 峰子
熊本県	ゆのまえGT未来ねっと	椎葉 和子
熊本県	錦町グリーンツーリズム研究会	福永 末司
熊本県	錦町グリーンツーリズム研究会	福永 和子
熊本県	錦町グリーンツーリズム研究会事務局	手柴 智晴

第11分科会

北海道	地域づくりネット深川輝人工房	小川 朋栄
-----	----------------	-------

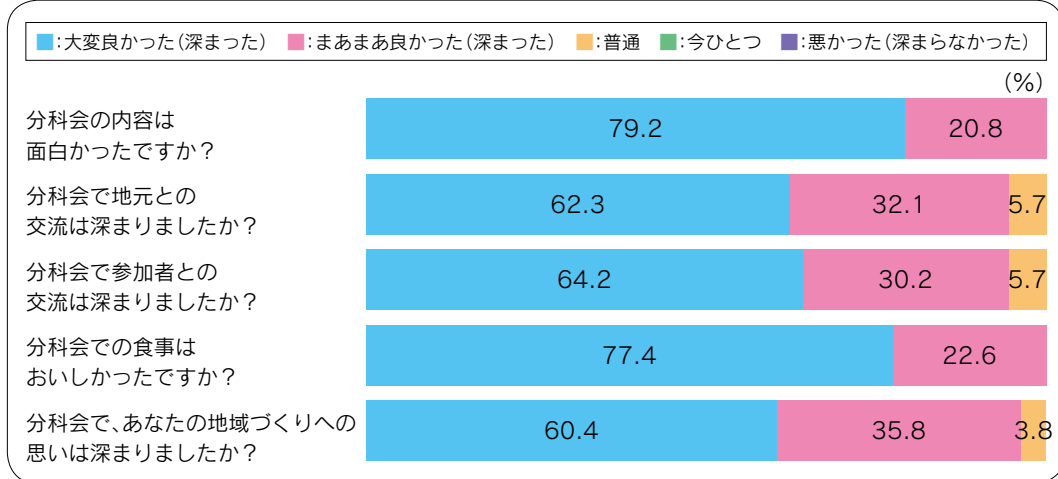
都道府県	団体・勤務先など	氏名
青森県	青森県企画政策部	北川 泰徳
青森県	青森県企画政策部	柳久保秀幸
群馬県	群馬県地域づくり協議会	星野 千春
石川県	能登町役場	中村 莉光
石川県	花咲く湯涌・まちづくりネットワーク推進プロジェクト	北 幹夫
福井県	福井県総務部	林田 悠佳
福井県	福井市西地区まちづくり協議会	杉田美津代
福井県	福井市西地区まちづくり協議会	綱村 栄治
福井県	福井市西地区まちづくり協議会	林 和真三
兵庫県	神陵台Eいまいちづくりの会	小山 英二
和歌山県	和歌山県 海草復興局	梅原 慎治
鳥取県	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	遠藤 育穂
鳥取県	境港市民総合ボランティアセンター運営協議会	松本 信子
鳥取県	大山町人権社会教育課中山公民館	池田 幸恵
鳥取県	楽しも なかやま	西本 憲人
鳥取県	稲葉山地区まちづくり協議会	高須 広海
香川県	香川県政策部	久保 朋之
香川県	みとよ100年観光会議	真鍋 貴臣
香川県	東かがわ市役所	竹田 誠一
香川県	東かがわ市役所	元網 一広
香川県	東かがわ市役所	川田 晴貴
香川県	香川県	大隅 知岳
香川県	家具工房木乃花	山地 裕之
香川県	宇多津町役場	古川 憲男
香川県	高松市役所	岡 陽子
福岡県	福岡県	橘 味加
佐賀県	佐賀市市民生活部協同推進課	北御門智子
長崎県	NPO法人森里海再生協議会	松村 信彦
長崎県	長崎県	小畑 雄一
宮崎県	NPO法人宮崎文化本舗	石田 達也
宮崎県	宮崎県	宮原 史浩
沖縄県	NPO法人美ぎ島宮古島	新村 一広
沖縄県	仲原益々ぶからず振興協議会	上里 勝彦
沖縄県	宮古島市役所	友利 浩幸
沖縄県	沖縄県企画部	佐久川政和
東京都	地域づくり団体全国協議会	柳井 雅也
東京都	地域づくり団体全国協議会	佐藤啓太郎
熊本県	NPO法人KAプロジェクト	田中 万里
熊本県	上天草 慈秀	鎌下 一嘉
熊本県	上天草市役所	古賀 忠明
熊本県	維和まちづくり	鬼塚 泰英
熊本県	維和まちづくり	山口 英雄
熊本県	維和まちづくり	小林 博美
熊本県	維和まちづくり	永松 敬一
熊本県	維和まちづくり	戸田 清

全体会

石川県	石川地域づくり協会	永下 和博
香川県	香川県政策部	武田 明弘
佐賀県	佐賀県地域づくりネットワーク協議会	鈴木 宣雄
宮崎県	koyu(^^)freee	川上 喜義
宮崎県	koyu(^^)freee	小野竜之介
東京都	総務省	時澤 忠
東京都	総務省 地域力創造G地域自立支援課	萩原 良智
東京都	一般財団法人地域活性化センター	椎川 忍

アンケート集計結果 (氏名及び団体・勤務先等は順不同)

分科会の主な意見



- 事務局の方々に加え、地域の方々のおもてなしが、大変素晴らしかったです。とても半年前に被災した場とは思えないほど活気に満ちた方が多かったです。私も地域の方が主体的に動けるよう、より良い行政に努めたいと思っております。
- 歓迎してもらっているという思いを受け取り、お互いの地域の話と同じ目線で行うことができ、とても記憶に残る体験ができた。思っていた以上に分科会での時間が楽しかった。
- いろいろな場所を体感できてよかった。交流ができたが、一つ一つの会や活動についての問題点など掘り下げた話がしたかった。
- 地域の方々の努力と結束力の強さを感じました。地域の活性化は何より、地域住民の当事者の問題であることを改めて感じ、行政ができること、地域ができることを考えようと思いました。

- 県外からの参加者が少なく残念だった。ただ、地域の方々が多く関わっている分科会であったため、活気があって良かった。見学ばかりだったのできつかった。もう少し体験や交流の時間がほしかった。
- すばらしい地域資源を活かすためには、やはり人の力が必要だと感じました。関わる人々の思いが強ければ、強いほど、輝くと感じました。
- 地域の方にとってもいねいにご説明いただいた上に、食事やアテンドなど、とても気を配っていただきました。一つ要望を挙げさせていただくとすれば、各団体様の取り組みについてご説明いただく際には、レジュメ等の説明資料が手元にあった方が、より理解が深まるのではと思いました。

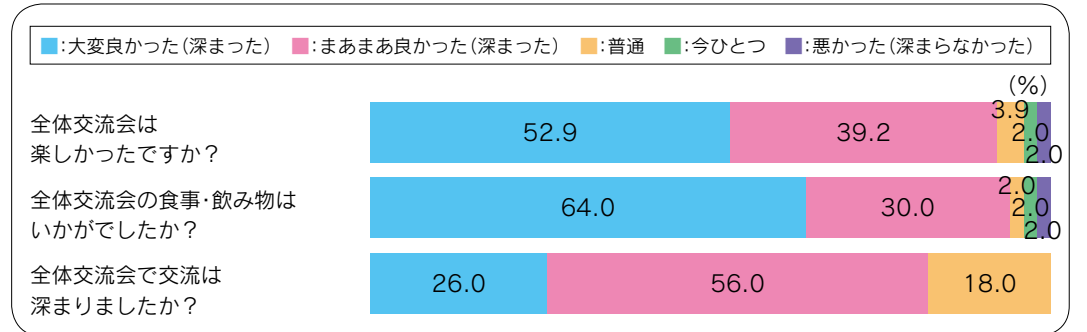
大会全般について 主な意見

- 県内多くの自治体の皆様が横につながり、一丸となって運営いただく姿、大変勉強させていただきました。被災して厳しい状況の中、開催していただいたこと、また全国の皆様に熊本の元気をプレゼントしてくれたこと、お礼申し上げます。
- 震災後とは思えないほどの皆様の笑顔が素晴らしかった。
- 初参加。これは観光なのか研修なのか。参加型研修が必要。

熊本地震と地域づくり活動について 主な意見

- この地域づくり団体全国研修交流会が予定されたとおり開催できていることが地域づくり活動の意気込みを感じましたし、とても素晴らしいことだと思いました。
- 継続をしてほしい。また数年後に何かの報告があれば、私たちも力づけられます。
- コミュニティがあると災害時に助かる。コミュニティがないところは、コミュニティをつくるチャンスになる。

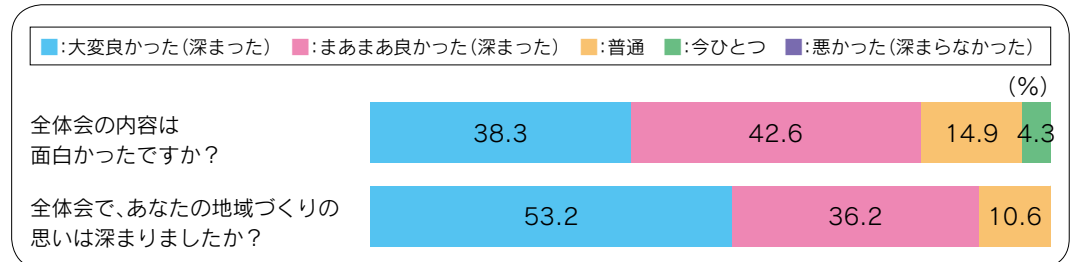
全体交流会の 主な意見



- 地域の魅力を活かした会場に、また来たいと思わせるおいしい料理をいただきました。立食形式も、移動して交流を深めやすく良かったです。
- まず、なによりも食事がおいしかったです。質も量もすごかったと思います。
- たいへん立派な酒蔵でとても楽しく、また料理もおいしく、なごやかなムードで交流ができました。九州熊本のあたたかさや力強さも感じました。
- 会場がバラバラだったのが残念だった。山鹿太鼓が見れず、オープニングやあいさつ等も、現場でないと見れない状況だったのでちょっと残念だった。各会場にモニターでもあれば良かった。

- 最初は一つの部屋でも可能でした。食事郷土料理は良かったです。念願の馬刺しが食べられました。ありがとうございました。
- 山鹿太鼓はすごい迫力であった。料理は地元食材で、手づくりが多かったのが、良かった。ちょっと分断感があった。
- 会場がすばらしかったです。屋台が出るなど、食事も大変楽しませていただきました。最初の太鼓がぜんぜん見えなかったのは残念でしたが、音は十分に聞こえたので、迫力は伝わってきました。

全体会の 主な意見



- 会場の八千代座のような資源は地域の武器と感じるとともに、地元の方々の努力なくしては、維持できるものではないだろうと思ひ、感心しました。
- 分科会報告の時間が短すぎた(その分熱い思いがあったのだと思う)。タイマーはメリハリがあつて良かった。
- 分科会が先の大会は初めて参加しましたが、何をやったかが分かるのも良かったと思いました。デジタイマーでタイムキープしていたのでタイトな日程もうまく進行されていたと思います。
- 場所も進行も大変良かった(司会も上手であった)。

- こんなすばらしい座を地域で守っているのはすばらしい。
- 各分科会の概要を聞いて良かったです。どの分科会も地域の人々の思いがぎっしりつまっているのがよくわかりました。震災時のまちづくり団体の取り組み、とても参考になりました。行政では踏み込めない一歩を皆様が担い、まちを支えておられるのがわかりました。
- 各分科会の発表時間が4分では短かった。震災の発表も少し短かったですね。でも、たくさん詰め込んでいただきありがとうございました。濃厚でした。



大会を終えて—

第34回地域づくり団体全国研修交流会
熊本大会実行委員会 委員長

沢畑 亨

「熊本で全国大会を開いてみませんか？」

平成25年の冬、福井県芦原温泉での全国大会交流会の会場で、岡崎先生の一言から熊本での大会は始まりました。

私個人は、平成21年度の佐賀大会から始まって、青森、鳥取、福井、三重、石川と参加をしてきました。平成23年度の熊本大会は、3月11日の東日本大震災(県内には何の被害もありませんでした)で、開催は諦めました。

なので、岡崎先生は再度熊本でどうか、というご提案だったのです。全国大会から帰り、県内の仲間、県庁の事務局の皆さんと話をし、ぜひやろうではないか、ということになりました。

平成23年度の熊本大会は、春に開催するなど、革新的な挑戦がいくつかありました。その一部は今回実現できたと思います。分科会で始めて、全体会で終わる2泊3日の形式は、その名残です。全体会を県庁所在地で開催しないのは、前年の石川の方式を踏襲しました。

今回は春に地震があり、場所によっては甚大な被害が出ました。もし熊本市で全体会を開く予定であれば、会場に想定したところ(熊本城の本丸御殿などを考えていました)は、ほぼ使えず、かなり困ったことになったと思います。山鹿の皆さんの熱意で、全体会場を山鹿にしたことで救われました。

山鹿の全体交流会も、酒蔵の雰囲気は抜群ですが、建物が分かれており、雨が降ったらかなり大変なことは予想していましたが、我々は勝ったのです。こうして、数年がかりで準備した大会が盛況で終わり、達成感を味わうことができました。参加者の皆さん、地域づくり団体全国協議会、地域活性化センターの皆さん、県や関係市町村の皆さん、本当にありがとうございます。

今後も地震の復興だけでなく、地域の課題は多々あります。我々は、それぞれの地域で違う課題に取り組み、別の道を歩いて行くのですが、横を見ると同じ方向を目指す仲間がいます。今後も、皆と力を合わせて歩いていきましょう。

第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会報告書

第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会実行委員会
平成29年1月発行

編集・発行 第34回地域づくり団体全国研修交流会熊本大会
実行委員会事務局(熊本県地域振興課内)
〒862-8570
熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18-1
TEL 096-333-2137
FAX 096-381-9001

印刷 株式会社 城野印刷所